

私が本学に着任した2007年は、相撲部屋の力士死亡事件や瞬間湯沸かし器が原因の複数人の死亡事故が社会的問題となり、異状死体の死因究明の重要性が広く認識されるようになった時期でした。

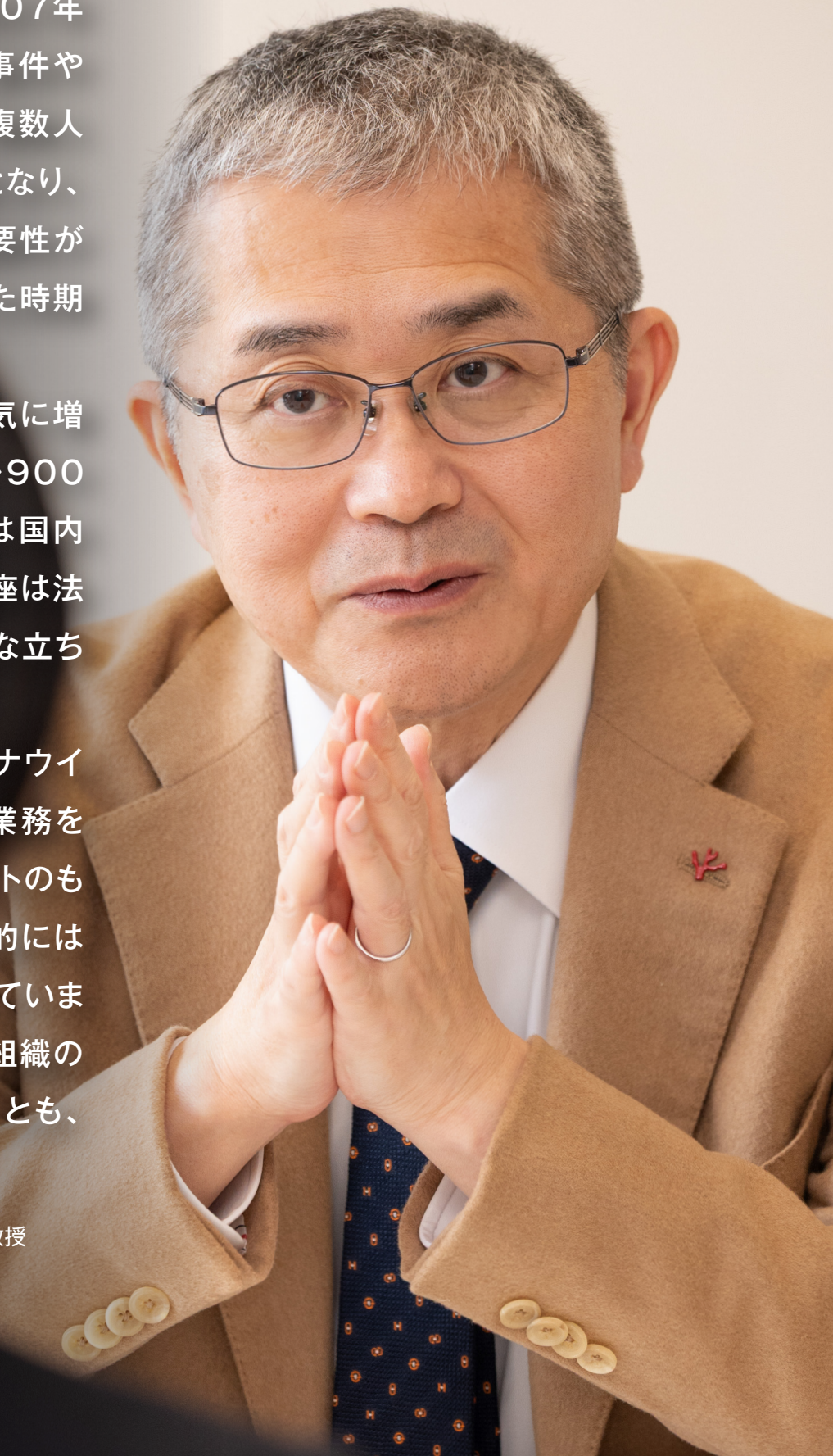
本学での解剖件数も一気に増加し、今では、概ね800~900件/年程度と、大学としては国内最多になり、気づけば当講座は法医学の最前線といえるような立ち位置になりました。

コロナ禍では、新型コロナウイルス感染症例を含む解剖業務を学内からの全面的なサポートのもと通常通りに完遂し、個人的にはちょっとだけ誇らしくも思っています。同時に慈恵大学という組織のありがたみを肌で感じたことも、記憶に残っています。

東京慈恵会医科大学 法医学講座担当教授

岩楯 公晴

Kimiharu Iwadate



02 巻頭言

明日を拓く 今、改めて胸に刻む先輩の言葉 学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

Feature 巻頭特集

03

**東京慈恵会医科大学同窓会
設立100周年を迎えて** 東京慈恵会医科大学同窓会
会長 武石 昌則

Ongoing

09 01 教育

医学科カリキュラム改革に向けた歩み
～歴代委員長がつなぐこれまでとこれから～ 解剖学講座 教授 岡部 正隆
熱帯医学講座 教授 嘉糠 洋陸
環境保健医学講座 教授 須賀 万智

11 02 研究

**病理像に「タンパク質の配置図」をのせて
病態を立体化** 内科学講座(腎臓・高血圧内科)
助教 岡林 佑典
～PathoPlexが描く120種超の空間タンパク質プロフィール～

13 03 診療

**手術で睡眠の質を高める
睡眠障害・睡眠外科外来の開設** 形成外科学講座 講座担当教授 宮脇 剛司
耳鼻咽喉科学講座 助教 齊藤 吉紀
精神医学講座 教授 山寺 巨
歯科口腔外科 講師 高山 岳志

PDCAへ

15

質の保証からさらなる改善へ 東京慈恵会医科大学 学長補佐
学校法人慈恵大学
内部質保証推進委員会委員長 柳澤 裕之

Topics

16

慈恵の未来を語ろう! 車座トークを開催

Information

19

慈恵医大西部医療センター 「つなぐ」を原点に未来へ

Nursing

22

若者の健康を未来へのギフトに 看護学科 教授 松永 佳子

JIKEI VIDEOS

23

専門医紹介動画のご紹介

24 News Flash

2025年

- 6月 柏病院薬剤部 日高さん表彰
- 7月 宮崎市立穆佐小学校本学招待旅行
- 8月 宮崎市「高木兼寛顕彰事業」特別大使
- 9月 北里大学名誉教授 相澤好治先生 講演会開催
理念行動化戦略「見える化スライド」新たなデザインを投票で決定、表彰式を実施
白衣授与式開催
- 10月 第142回成医会総会「成医会優秀ポスター発表賞」及び「成医会学生ポスター発表賞」の受賞について
高木家墓参
第121回 解剖諸霊位供養法会
西部医療センター竣工式
- 11月 自衛消防活動体制の確立と災害防止への寄与
- 12月 令和7年度 医学教育等関係業務功労者表彰
第9回東京慈恵会医科大学・東京理科大学合同シンポジウム・ワークショップ
2025年度研究スタートアップ奨励賞授賞式

2026年(令和8年)主な行事予定表(1月～12月)

33 Notice

- 大学公報(行事/公示/学事/訃報/東京慈恵会公報)
- 補助金・助成金
- 生涯学習・公開セミナー等
- 院内表彰受賞者
- プレスリリース
- 寄付のお願い
- ガバナンス(行動憲章/行動規範)
- 医療連携窓口のご紹介

**明日を拓く
今、改めて胸に刻む先輩の言葉**学校法人慈恵大学
理事長 栗原 敏

令和7年11月15日、本学の同窓会設立100周年記念式典・祝賀会がThe Okura Tokyoで盛大に行われ、本号で取り上げられています。本学は明治14年5月1日、高木兼寛先生が英国セント・トーマス病院医学校における5年間の留学から帰国し、“医風の改良と学術の考究”を目指して成医会講習所を開設したのが始まりです。成医会は出身学校の差別なく一般医師も入会できたようで、母校の出身者だけを会員とする同窓会を持ちたいという声が高まり、紆余曲折を経て、大正14年(1925年)4月11日、東京同窓会の席上“全国同窓会設立の件”が提案され、満場一致で承認されました。これをもって、東京慈恵会医科大学同窓会が設立されたのです。その背景には、大正12年(1923年)9月1日に発災した関東大震災で本学の建物が、御大典記念館1棟を残して全壊し、金杉英五郎学長が“これは災難ではない試練だ、立ち上がろう”と全教職員、学生に呼びかけたということがあります。この時、全国の同窓にも協力を呼びかけ、寄附を募り、旧大学本館を建て、本学はいち早く立ち直ることができたのです。以来、同窓の絆が作られ、その後、看護学科の設立に伴い、看護学科支部も加わり全国的な同窓会へと発展したのです。同窓の絆を創っているのが毎月発行されている“慈大新聞”です。全国の会員は毎月定期的に発行される慈大新聞を心待ちにしているのです。武石昌則同窓会長の献身的な活躍によって会員は励まされ、母校と連帯感をもって励んでいるものと思います。

本学は全国に先駆けてカリキュラム改革を行い、医学教育を先導してきました。本号では慈恵の医学

教育カリキュラムの特徴(アウトカム基盤型カリキュラム)が、歴代医学科カリキュラム委員長によって紹介されています。これまでの経験と世界の潮流を見据えて作られている本学のカリキュラムの特徴を知ることができます。

教育とともに大学の重要な使命は研究活動です。本号では腎臓・高血圧内科学講座の岡林佑典助教による、120種類ものタンパク質を空間的に捉える新たな画像解析技術が紹介されています。この研究は、国際的にも大変高い評価を得ており、内科医師でありながら、基礎研究で成果を上げている岡林先生はPhysician Scientistのモデルではないかと高く評価しています。

形成外科の宮脇剛司教授は、先日、日本頭蓋顔面外科学会を主催されました。形成外科は臨床現場で活躍の場を広げています。“心地よい顔を求めてーラインを極めるー”をテーマに学会が開催されました。形を整えることは生体の機能と深い関係があります。私の専門の生理学では、Structure and Functionが基本的に重要な考えです。生体の形は生体が正しく機能するために必須です。宮脇教授は睡眠外科という新たな診療形態を考えていますが、気道を含めた形態が美しいことが睡眠の質に影響するとの視点から、耳鼻咽喉・頭頸部外科と連携して、睡眠外科という概念を提唱されており、その内容が紹介されています。

現在、医療経済が困窮していますが、この難局を“できないのではない、やろうとしないのだ”という本学の大先輩、西丸和義先生の言葉を思い出し、乗り越えたいものです。

東京慈恵会医科大学同窓会 設立100周年を迎えて

～2025年11月15日 記念式典・祝賀会開催～



1. はじめに

昨年、東京慈恵会医科大学同窓会は設立100周年という大きな節目を迎え、令和7年11月15日、The Okura Tokyoにおいて記念式典および祝賀会を挙行了いたしました。当日はご来賓はじめ大学教職員、そして全国各地から多数の同窓会員にご参集いただき、総勢423名の皆様をお迎えする盛会となりました。記念式典では小生の式辞および100周年記念映像に続き、栗原敏理事長の祝辞、慶應義塾大学三四会武田純三会長の来賓祝辞、松藤千弥学長の学長講演、ならびに横尾隆副学長の記念講演が行われ、大変好評でした。祝賀会の締めには、羽織袴に学生帽の同窓会役員が登場し、出席者全員が円陣となり肩を組み、山本裕康常務理事の豪快なエールとともに「第一学生歌」を大合唱しました。会場は終始和やかで活気に満ち、随所で楽しそうな歓談の輪が広がる、まさに慈恵らしさを体現した催しとなりました。

2. 慈恵医大同窓会設立の経緯

慈恵医大は明治14年、学祖高木兼寛先生が成医会講習所を開設されたことに始まります。その後44年の歳月を経て、大正14年4月11日、東京慈恵会医科大学同窓会が発足いたしました。同窓会発足の大きな契機となっ



東京慈恵会医科大学同窓会 会長
武石 昌則



記念映像
「100周年に寄せて」

たのは大正12年に発生した関東大震災です。大学に昇格してからわずか2年足らずという時期に、この未曾有の大災害に見舞われ、御大典記念館を除き、建物は全て焼失しました。そのような絶望的な状況の中、力強く復興



【関東大震災直後】大正12年の慈恵医大

を支えたのが同窓会です。金杉英五郎初代学長の「これは災難ではない試練だ、立ち上がろう」との言葉に呼応し、母校の灯を絶やすまいとする同窓が教職員や学生と力を合わせ、再建の大きな原動力となりました。

震災当時、同窓会はまだ全国組織にはなっていませんでしたが、東京や神奈川など地理的に大学に近い地域では同窓生も多く、すでに同窓会活動は活発に行われていました。震災後の復興支援をする中で全国規模の同窓会結成への機運が高まり、現在の体制へと発展したのです。その結果、募金活動など組織としての機動力が上がり、震災後の復興において、東京慈恵会医院及び大学本館の建築に大きく貢献することができました。

団体の変遷をたどると、当初は任意団体として発足し、昭和30年の同窓会館の建築を機に一般社団法人となりました。その後、公益法人制度改革に伴い、平成24年に従来の社団法人を解散し、任意団体として再出発して現在に至っています。

発足当時2386名であった会員数も、現在は8613名に達し、北海道から沖縄まで全国85支部が活動しています。一部合同で活動している地域はあるものの、概ね東京23区および各県には1支部以上が配置されています。また、平成15年には慈恵医大に医学部看護学科が併設されたことに伴い、同窓会にも看護学科支部が設けられました。

3. 同窓会の存在意義

同窓会長を拝任して以来、「同窓とは何か」と自分自身に問うことが今まで何度もありました。これには、今回の式典で栗原理事長が端的にその解を示してくださいまし

た。それは『同じ時代を苦楽をともにして過ごし、理念と価値観を共有できる仲間であること』と表現されており、腑に落ちました。同窓としてどうありたいか、同窓として何をすべきなのかを考えるにあたり、具体的な行動の基点ともなるお言葉でした。

その上で、「同窓会の存在意義とは何か」という点について考えを馳せてみますと、その本質は「支援」ではないかと考えます。同窓会が行う支援の特性は、経済的な側面のみならず、精神的な側面を併せ持つ特殊性が包含されていると思います。これこそが「同窓とは何か」に通じるのではないかと感じます。つまり、同窓会の支援とは『同じ時代を苦楽をともにして過ごし、理念と価値観を共有できる仲間』がいることを実感することで、それが、より奮起し前進する力を生み出すことにつながるのではないかと捉えています。

一方で、近年の活動を通じ、同窓会は同窓会員のみにならず、大学教職員、さらには慈恵で働くすべての方々に対しても支援を行いうる存在であることを、改めて認識するに至りました。その象徴的な出来事が、新型コロナウイルス感染症のパンデミックです。

あの時、医療物資も限られる中、未知なるウイルスに立ち向かう現場は非常に緊迫しておりました。最前線で闘う医師・看護師・コメディカルをはじめ、全ての部署の皆様が心身の限界に近い状況の中で使命を全うしておりました。そこで、同窓会ができることを考えながら、まず慈大新聞で感染防護用品の寄付を呼びかけたところ、全国の同窓会員から、すぐさまN95や感染防御ガウンなどが段ボールで大量に送られてきて、同窓会の応接室がいっぱいになりました。全国の同窓が、母校を後方から支えていることを強く実感した瞬間でした。



【震災から7年後】昭和5年 東京慈恵会医院竣工



【震災から10年後】昭和8年 大学本館竣工



平成12年 附属病院中央棟竣工

また、東京タワーに医療従事者への感謝の気持ちを込めた「ARIGATO」のメッセージが表示された際には、それを撮影し、メッセージカードを作成して、慈恵で働く全ての職員の皆様にお配りしました。後日、「病院スタッフが感染防護用品とフォトメッセージカードに、とても励まされた」と大学関係者からお聞きして、感慨深いものがありました。全国の同窓会員を代表し、同窓会として敬意と感謝の気持ちをお伝えすることができたこと、そしてそれが、大学の教職員の方々にとって少しでも励みになったとしたならば、まだまだ同窓会には大学に対してきうる支援があると感じています。

■ 4、事業内容

同窓会では、同窓会員をはじめ多方面からお寄せいただいた資金を有効に活用すべく、さまざまな支援活動を展開しています。

まず、災害支援です。これは関東大震災に端を発する同窓会の原点とも言える活動であり、第二次世界大戦、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震、さらには大雨による洪水や土砂災害、そして新型コロナウイルスのパンデミックなど、困難な状況にある同窓の現況をいち早く掌握し、具体的な支援を迅速にしていけることが非常に重要なことだと考えています。

また、学術関係では海外学会における優秀な発表者に対する支援や、講座担当教授の最終講義を記録したDVDの作成も行っています。

そして、学祖高木兼寛先生の功績を伝える広報活動支援も、近年力を入れている分野です。小説「群星光芒 高木兼寛」の発刊、脚気論争を検証したNHK BS番組「フランケンシュタインの誘惑」のDVD作成、高木兼寛を主人公とした演劇「須く、一歩進む」の協賛など、今後も多様な形で学祖の偉業を発信していきたいと考えています。

さらに、昨年からは慈恵医大の卒業生に対しても新たな取り組みを始めました。それは、卒業証書が授与される光景を、映像(QR)と写真で記録に残し、卒業生全員に記念品として贈呈することです。特に昨年はコロナ禍を乗り越えての卒業でしたので、困難な状況に打ち勝った証として、心に残る記念品となったように思います。

■ 5、慈大新聞の役割

同窓会には、支援事業に加えて、もう一つ重要な役割があります。それは、機関紙である「慈大新聞」の発行です。関東大震災や戦争で激動した時代から、慈恵の息吹を取り戻す上で欠かせなかった同窓会の精神的支柱ともいえる存在です。慈大新聞は戦中から戦後にかけてやむ無く数年間発刊が途絶えた時期がありますが、この100年を通じて全国の会員を結びつけ、「情報」と「志」を共有する重要な役割を果たしてきました。毎月の発刊を継続できたのは、どのような状況にあっても諦めずに、同窓をおもい紙面を作り続けてきてくださった先輩方の存在があったからです。その歴史と伝統を、次代を担う後輩へと確実に伝えていきたいと思ひます。

■ 6、大学との強い絆

本学では、毎年卒業50周年を迎える同窓を招待し、懇親会を開催して下さっております。大学が同窓を大切にくださることは、同窓と大学との結びつきをより強固なものにしていると感じます。同窓にとって、慈恵医大は医療人としての歩みを始めた原点です。いかなる試練に直面しようとも、慈恵医大の同窓であることの誇りを忘れず、同窓であることの喜びを感じながら、医療人として社会に貢献していくことを後押しできる同窓会でありたいと思ひます。

また、同窓会には他学出身である特別会員と準会員の方が約1割いらっしゃいます。他学で学ばれたことを生かしながら、慈恵において新しい視点で物事を切り開き、大学や病院の各分野で、ご活躍されています。慈恵の発展に多大なる貢献をされていることに対し、同窓会長として敬意を表すると共に、同窓会にご協力いただき深く感謝いたします。

慈恵医大同窓会は同窓の結束をさらに深めつつも、同窓の枠にとらわれず、オール慈恵の視点を持ちながら、大学と「ともに歩む慈恵」を現実のものとして、更なる飛躍をして参ります。今後とも、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和二年五月二十九日 航空自衛隊ブルーインパルスが慈恵医大上空を飛行 医療従事者に敬意と感謝の気持ちを込めて (©コード四分半映像)
制作：東京慈恵会医科大学同窓会 映像提供：防衛省航空幕僚監部広報室・東京タワー・産経新聞社・朝日新聞社・時事通信フォト



新型コロナウイルスが感染拡大する中、このゴールデンウィークに、東京タワーから心温まるメッセージが発せられた。医療従事者への敬意と感謝を表す青で彩られたタワーの中ほどに、白く光る文字が見えた。「ARIGATO」。早速撮影に向かい東京タワーを一周すると、そのメッセージは慈恵からよく見える北側に表示されていることがわかった。東京タワーから直前に連絡が入り、この情報は慈恵医大全教職員にメール配信された。(慈大新聞令和二年五月二十五日) このフォトメッセージは全同窓会員及び慈恵医大の全教職員に配布された。



東京タワーに医療従事者への感謝の気持ちを綴った「ARIGATO」のメッセージカード

医学科カリキュラム改革に向けた歩み ～歴代委員長がつなぐこれまでとこれから～

はじめに

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行は私達の生命と健康を脅かし、それまでの生活を一変させました。教育現場もまた然りで、学生・教職員の感染リスクを抑える方策や、病院業務を妨げることなく学生の臨床実習の機会を確保する方策など、皆で知恵を出し合い乗り越えた経緯があります。かつてない混乱の時期を経て、本学の教育はどこへ向かっていくのか。歴代カリキュラム委員長の奮闘ぶりを振り返り考えてみたいと思います。

本学のカリキュラムの概要

本学の教育の根幹は建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」と医学科教育理念「医学は学と術と道とより成る」にあり、6年間のカリキュラムを通して「病気を診ずして病人を診よ」を体現できる医師を育てることを目指しています。文部科学省『医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和

4年改訂版)』に「総合的に患者・生活者を見る姿勢」や「全人的な視点とアプローチ」が盛り込まれ、最近では多くの医育・医療機関が全人的医療を謳うようになりましたが、本学は建学以来145年にわたりこの精神を受け継ぎ、本学ならではのカリキュラムを構築してきました。

2019～2021年度

岡部委員長のウイズコロナにおける取り組み

新型コロナウイルス感染症の流行は本学の教育体制にこれまで経験したことのない制約をもたらしました。2020年春の緊急事態宣言下では、登校しての授業を全面的に停止し、講義はすべて非同期型の遠隔授業へ移行しました。各ユニットで速やかにeラーニング教材を整備し、従来は学内でしか利用できなかったSeDLES(学内試験や国家試験の過去問に取り組む演習)も、「Elsevier eReview」の導入拡充により自宅で取り組める体制を整えました。実

習や演習といった対面が不可欠な科目については、Zoomを活用した遠隔授業を可能な限り準備し、学生の学びを止めないことを最優先にしました。

現場での臨床実習も、感染状況に応じて遠隔形式と対面形式を柔軟に切り替え、2020～2021年度には何度か全面中止と再開を繰り返しました。その中でも、安全を確保しながら共用試験(CBT、OSCE)・総合試験を例年どおり実施できたことは、大学全体が連携して築いた大きな成果でした。

一方で、ウイズコロナの厳しい環境は、学生の自律学習を支える遠隔教材の充実、対面授業の位置づけの再考、そして臨床実習前教育の刷新に向けた議論を加速させました。感染対策上必要であった教室分散や時間帯調整は、結果としてユニット間の連携を見直す契機となり、2022年度以降に本格化したコース「臨床基礎医学」・コース「臨床医学」の再編につながる重要な布石となりました。

かつてない困難の中で、学生・教職員がともに学びを守り抜いた経験は、「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神を、教育のかたちとして再確認する機会となりました。このウイズコロナ期の取り組みが現在のカリキュラム改革の原動力となっていると感じています。



解剖学講座
教授

岡部 正隆

2022～2024年度

嘉糠委員長のアフターコロナにおける取り組み

アフターコロナの状況下でのカリキュラム委員会は、教育の質向上と新たな学修環境の整備に向けた改革を進めました。講義系ユニットについては、コロナ禍で一気に整備されたeラーニングの利点を最大限に活用し、オンライン講義を引き続き基本とする方針を維持しました。学生が自らのペースで学習を深められる非同期型学修は、知識習得の効率化に一定の成果を示し、アフターコロナの教育モデルとして定着しつつあります。

一方で、医学教育の根幹を成す実習・演習系ユニットについては、対面での教育を強化することを目指しました。4～5年次に行う全科臨床実習では、これまで以上に幅広い診療領域を経験できるよう、医学生が内科の全科を回ることでできる体制へと改良しました。また、2年後期から4年前期にかけて学年横断的に展開されるユニット「症候病態演習」を新設し、症候から病態へつなげて思考する臨床推論能力の涵養を図りました。さらに、従来は1年生のみを対象としていたユニット「教養ゼミ」を全学年に拡大し、後期教養教育の理念に基づいた多面的な学びの機会を提

供しました。5～6年次に行う診療参加型臨床実習では、家庭医実習のチーム(1か月)を設置し、地域医療の現場で実践的な学修が行える環境を整えました。

加えて、対面講義が持つ有形無形の教育的価値に着目し、主要コースにユニット「イントロダクション」を配置しました。教員が自由闊達に専門領域の魅力語ることで、学生に学問への好奇心を喚起し、学修への主体的参加を促す場となっています。

これらのアフターコロナでの取り組みは、講義よりも実習・演習を上位に据えた反転授業モデルの確立を目指すものです。知識偏重に陥りがちであった従来の医学教育を是正し、学生が卒業までに習得すべき「知識」「技能」「態度」をバランスよく身につけられるカリキュラムへと進化させる試みとして位置づけています。



熱帯医学講座
教授

嘉糠 洋陸

2025年度～

須賀委員長のこれから

本学は、新型コロナ感染症流行以前から、自ら学ぶ姿勢を重視し、学生に自律性を求めてきました。ウイズコロナ、アフターコロナを経た現在も、この方針は受け継がれ、基本的な知識はeラーニングで自学自習し、対面で行う実習・演習を通して体験から学びを深めることを原則としています。自律学修を効果的に進めるには、各ユニットで習得すべきことは何か、前の学年で習得したことが次の学年でどのように広がり深められ、卒業時にどこまで到達すればよいかを、学生一人ひとりが理解できている必要があります。このため、ユニット間の横(学年内)と縦(学年間)のつながりの「見える化」を推進しており、本年9月に開催したカリキュラム編成会議では「医学教育モデル・コア・カリキュラムを通じてお互いのことをもっと知り合おう!」をテーマにワークショップを行いました。

現在あるカリキュラムは歴代委員長がそのときどきの変化や課題に柔軟に対応し、学生・教職員の皆さんと力を合わせ築き上げてきた賜物であり、このプロセスこそが「慈恵らしさ」の源であるように感じます。プロフェッショナルリズム教育の拡充や臨床実習プログラムの改革をはじめ、今後の取り組みにおいても、歴代委員長の姿勢を大切に継承し、よりよいカリキュラムづくりに活かしてまいります。



環境保健医学講座
教授

須賀 万智

新カリキュラムマップ

卒業時コンピテンス・コンピテンシー



内科学講座(腎臓・高血圧内科)
助教
岡林 佑典



病理像に「タンパク質の配置図」をのせて 病態を立体化

～PathoPlexが描く120種超の空間タンパク質プロファイル～

なぜタンパク質を“空間”で観るのか

病気の最終的な担い手はタンパク質です。量が増える・減るだけでなく、「どこに局在しているか(細胞膜・細胞質・核など)」が機能を決めます。受容体が膜から核へ移る、リン酸化が核に偏る——こうした位置の変化は病態のスイッチです。近年はトランスクリプトミクスによりRNAの全体像が見えるようになりましたが、RNA量と実際のタンパク質の量・局在は必ずしも一致しません。翻訳や分解、局在制御が介在するためです。したがって「タンパク質×空間」を同時に捉える技術は、診断・層別化・治療標的探索の鍵になります。

プロテオミクスの基礎： 質量分析の強みと限界/ 空間プロテオミクスへ

プロテオミクスは、細胞や組織中に存在するタンパク質を網羅的に測る研究手法の総称です。中心的方法は質量分析で、消化したペプチドの質量と強度からタンパク質の同定・定量を行います。数千種規模を一度に測れる網羅性が強みですが、試料を均質化するため空間情報が失われる、微量の臨床検体では感度や再現性が課題、といった限界もあります。

この欠点を補うのが空間プロテオミクスです。抗体や金属標識などを用いて、切片上の位置を保ったまま複数のタンパク質を同時可視化します。ところが既存法の多くは専用装置や改変抗体が必要で導入障壁が高く、また解析側では、細胞境界を切り出す“セグメンテーション”への依存がボトルネックになりがちです。糸球体・尿細管・間質が入り組み、上皮・内皮・間質細胞や細胞外基質が密に接する腎臓では、境界誤差が下流の結果に影響を与えることがあります。こうした現実的な壁を越えることが、臨床現場で使える空間プロテオミクスには不可欠でした。

PathoPlexの仕組み

我々が開発した「PathoPlex (Pathology-oriented multiplexing)」は、標準的な蛍光顕微鏡と市販抗体だけで、1枚の切片から120種類以上のタンパク質をサブセラー解像度で読み解く枠組みです。方法の核は「染色→撮像→抗体の溶出→再染色」を繰り返す反復多重免疫蛍光染色で、約80nm/ピクセルの解像度、95サイクル超・140レイヤー以上のタンパク質を確認しました(図1a)。

運用面では、市販の3Dプリンターをプログラム制御し、試薬の塗布・インキュベーション・洗浄を自動化して“簡易自動染色機”として活用しました。3Dプリンターで印刷した大面積チャンバーに複数切片を配置し、40～60検体超を並列処理できます。高価な専用自動染色機を使わず、研究室レベルで再現性の高い多重染色を実行できる点が強みです。

独自解析基盤「spatiomic」— セグメンテーションに頼らない

多重画像は、私たちが独自に開発したGPU対応Pythonライブラリ「spatiomic」で解析します。細胞の輪郭を仮定せず、画素(ピクセル)ごとの多重強度から直接パターンを学習します。具体的には、自己組織化マップ(SOM)で似た強度の画素をまとめ、近傍関係からグラフを構築し、Leiden法で「タンパク質の共発現パターン(=似た振る舞いを示す“まとまり=クラスター)」を抽出します。これにより、量の増減だけでなく局在の変化(例:細胞質から核への移動)もパターンとして記述できます(図1a,b)。データ取得のばらつきを調整しつつ同じクラスタを患者間で共通のラベルで扱える設計により、疾患群間の比較や治療介入の効果検証、空間的な近接関係の評価まで、一連の解析をひとつの基盤で完結できます。

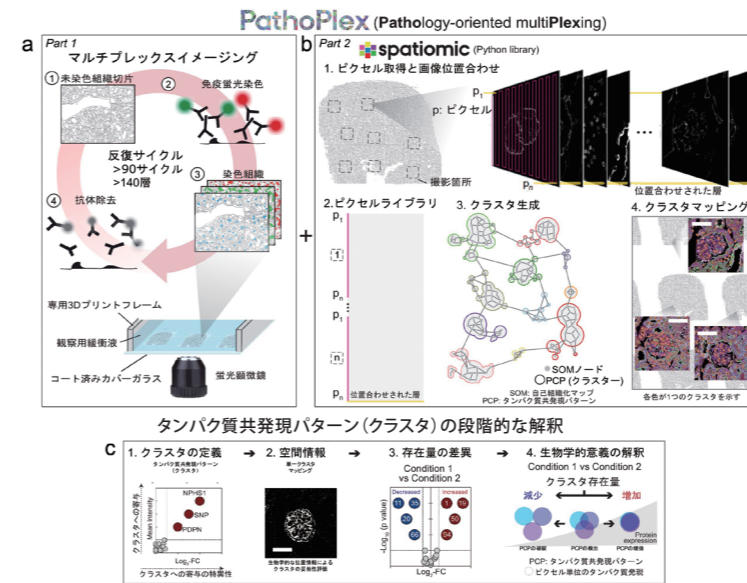


図1. PathoPlexのワークフローとspatiomic解析
a: PathoPlexの全体像。免疫蛍光の染色→撮像→抗体溶出→再染色を反復して多重化(>90サイクル、>140層)。3Dプリンターで製作したフレーム/大面積チャンバーを用い、倒立型蛍光顕微鏡で撮像する。
b: spatiomicによる解析と解釈の流れ。1) 全層を位置合わせしてピクセル強度を取得、2) 自己組織化マップ(SOM)で類似画素を集約、3) 近傍グラフからクラスタ(タンパク質の共発現パターン)を生成、4) 組織上にクラスタをマッピング。
c: クラスタの段階的解釈。①クラスタの定義(寄与マーカー)、②空間分布、③条件間での存在量差(ボルケーノプロット)、④生物学的意味づけ(局在・発現の解釈)を行う。

腎疾患を対象とした検証と臨床的意義

まず腎疾患を対象に検証しました。免疫性腎炎モデルでは、上皮細胞におけるJUNの活性化を中心とした共発現パターンが病態のスイッチとして働くことを見だし(図2)、細胞実験や治療介入と結び付けて確かめました。臨床の糖尿病性腎症(DKD)では、近位尿細管の代謝ストレスやミトコンドリア機能不全、間質の再構築などを示す複数のクラスタを抽出し、eGFRなどの臨床指標との相関関係を確認しました(図3)。さらに、尿所見のない腎症発症以前の2型糖尿病の研究用生検でも解析を行い、SGLT2阻害薬による改善傾向(例: 毛細血管やミトコンドリア関連シグナルの回復)を空間情報と結び付けて読み取りました。

これらはFFPE標本で、一般的な顕微鏡と市販抗体のみで実施可能です。つまり、病院内に蓄積されたアーカイブ検体を再び“分子地図”として読み直す道が開けます。施設間で同じ手順・同じ指標を用いて比較できる実務性も、臨床研究の推進にとって大きな利点です。

今後の展望— 形態学に分子レイヤーを重ねる

病理診断は形態学を基盤として発展してきました。しかし同じ形態学カテゴリーでも予後が分かれることは少なくありません。PathoPlexは、形態像の上に「タンパク質の量」「局在」「共発現のまとまり」という新しい情報層を重ねることで、早期診断、患者層別化、治療標的探索を一段と前進させます。腎にとどまらず、肝・脳・腫瘍など多臓器への展開も視野に、複数施設が同じ手順・同じ指標で比較できる“現場で使える空間プロテオミクス”を広げていきたいと考えています。読者の先生方との共同研究により、病態理解の深化と治療開発の加速を目指します。

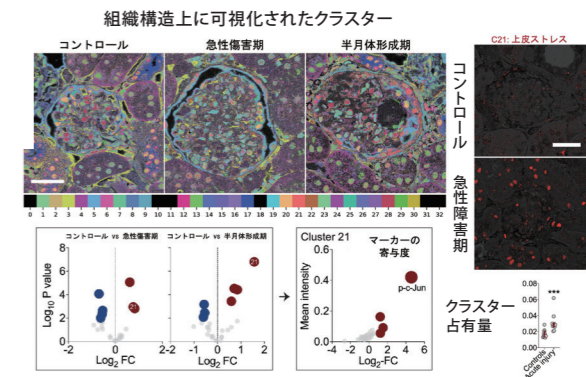


図2. 上皮ストレス関連クラスター(C21)の抽出と比較
左: コントロール、急性傷害期、半月体形成期のクラスターマッピング。色はクラスターID。
下段左2図: コントロールを基準にしたボルケーノプロット。C21(赤)が傷害群で増加。
下段右: C21の寄与マーカー(例: p-c-Jun)。
右列: C21のみを抽出した空間分布(上: コントロール/下: 急性傷害期)と、クラスター占有量の定量(右下)。
***は統計学的有意差を示す。白線=スケールバー。

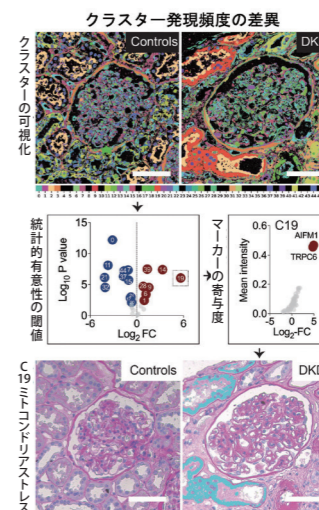


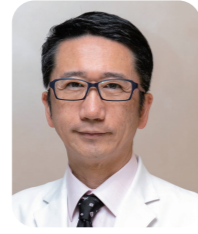
図3. 糖尿病性腎症(DKD)におけるクラスター頻度の変化と病理所見の対応
上: コントロールとDKDのクラスターマッピング。
中左: コントロールを基準にしたボルケーノプロット。赤=DKDで増加、青=減少。破線枠のC19を強調。
中右: C19の寄与マーカー例(TRPC6, AIFM1)。
下: 対応する組織像(代表例)。C19は代謝ストレスに関連した尿細管障害を反映するクラスターとして同定された。白線=スケールバー。

参考文献

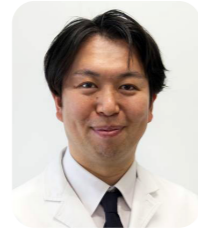
Malte Kuehl*, Yusuke Okabayashi*, Victor G. Puelles*, et al. Pathology-oriented multiplexing enables integrative disease mapping. *Nature* 644, 516–526 (2025).

アスタリスク(*)は共同第一著者を、ダブルダガー(‡)は責任著者を示しています。

Ongoing 03 診療



形成外科学講座
講座担当教授
宮脇 剛司



耳鼻咽喉科学講座
助教
齊藤 吉紀



精神医学講座
教授
山寺 亘



歯科口腔外科
講師
高山 岳志

手術で睡眠の質を高める 睡眠障害・睡眠外科外来の開設

睡眠障害は、現代社会において極めて深刻な健康課題の1つとなっています。人は人生の約3分の1を睡眠に費やしますが、十分な睡眠が確保されない場合、身体的・精神的な影響を受けるのは言うまでもありません。睡眠障害には多種多様な疾患が含まれますが、その多くは適切な検査と治療によって改善が可能です。睡眠外科はこうした睡眠障害に対して内科的アプローチのみならず、外科的治療も組み合わせて総合的に対処する診療分野です。

睡眠障害の種類と特徴

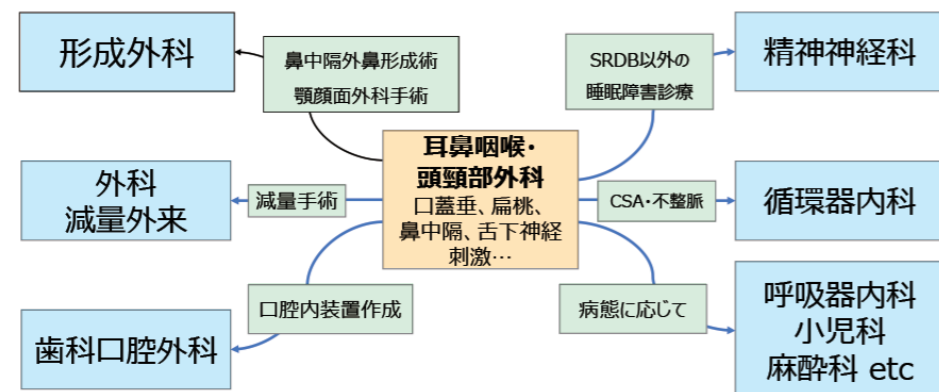
睡眠障害には主に不眠症、睡眠時無呼吸症候群、レム睡眠行動障害、むずむず脚症候群、ナルコレプシー、概日リズム障害などがあります。不眠症は寝つきが悪い、夜中に何度も目が覚めるなど、夜間の不眠症状によって日中の心身機能が障害されます。睡眠時無呼吸症候群は、睡眠中に呼吸が繰り返し止まる疾患で、日中の強い眠気や集中力の低下、起床時の頭痛などをもち、心血管疾患との関連が強く、生命予後にも影響します。レム睡眠行動障害は、眠っている間に夢の内容に沿った体の動きが現れ、場合によっては他者を傷つけることもあります。むずむず脚症候群

は、夜間睡眠中に脚に不快感が生じる疾患で、頻繁に目覚める原因となります。ナルコレプシーや概日リズム障害は、突発する居眠りや睡眠周期の乱れによって日中の活動に支障を来す疾患です。

睡眠障害・睡眠外科の役割と診療体制(図1)

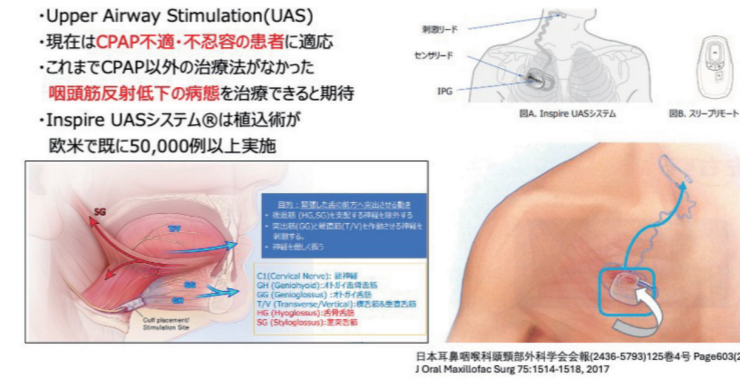
慈恵医大附属病院の睡眠障害に対する診療は、これまでも耳鼻咽喉・頭頸部外科と精神神経科が中心となり、循環器内科、歯科口腔外科、小児科、麻酔科、中央検査部、呼吸器内科など、幅広い専門医が協働し包括的な治療を提供してきました。診療の流れは、耳鼻咽喉・頭頸部外科と精神神経科の合同診療によって詳細な問診に始まり、血液検査、心電図、頭頸部画像検査(CT、MRI等)、終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)、反復睡眠潜時検査(MSLT)などを通じて、疾患の診断と治療方針を決定してきました。不眠症には認知行動療法(CBT-I)が、過眠症などには薬物療法などが用いられます。これに加えて睡眠外科では、睡眠時無呼吸症候群などに対して内科的治療だけでなく外科的処置も適用されます。例えば、持続陽圧呼吸療法(CPAP)は睡眠時無呼吸症候群の標準的治療であり、重

【図1】 東京慈恵会医科大学附属病院 睡眠障害・睡眠外科 2025年10月



SRDB: Sleep-Related Disordered Breathing睡眠関連呼吸障害 CSA: Central Sleep Apnea中枢性睡眠時無呼吸症候群

【図2】 舌下神経電気刺激装置



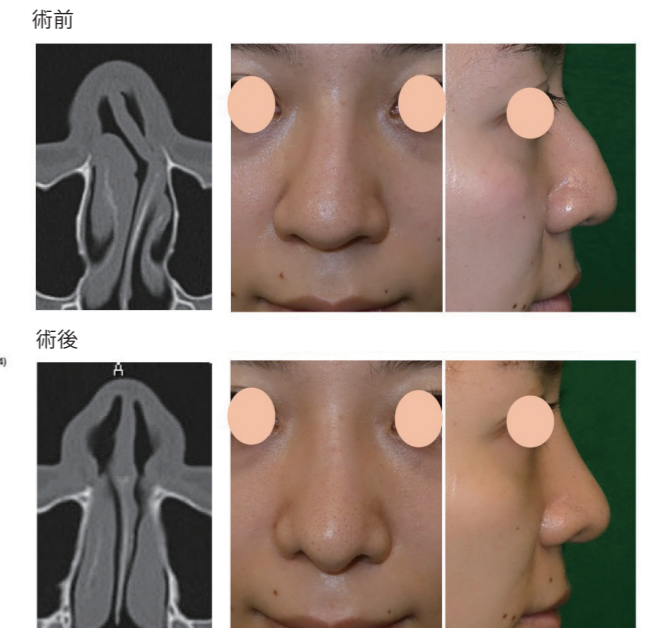
症例に有効です。軽症から中等症例では、歯科口腔外科と連携して口腔内装置(マウスピース)を使用することで、気道閉塞の改善を目指します。さらに、口腔筋機能療法(MFT)を行うことによって、小児の口呼吸の改善やCPAPのアドヒアランス向上を目指すこともあります。耳鼻咽喉・頭頸部外科では口蓋扁桃摘出術、口蓋垂軟口蓋咽頭形成術(UPPP)、鼻中隔矯正術などが行われてきました。近年では新たな治療法として舌下神経電気刺激装置植込み術が追加されました(図2)。最近の知見では鼻中隔前部部の彎曲が睡眠時無呼吸症候群との関連が指摘されていますが、2018年に附属病院に発足した鼻中隔外鼻クリニックが同部位の治療を担っています(図3)。さらに形成外科では歯科矯正治療を併用した顔面骨格の骨切り手術によって上顎と下顎を前方に移動し、気道容積を拡大する手術を提供しています(図4)。

慈恵医大附属病院では睡眠外科に包含される全ての手術を提供できる体制が整ったため、肥満外科部門の設立と併せ従来の睡眠診療の基盤に基づいた新しい診療部門を設立しました。これが睡眠障害・睡眠外科です。睡眠外科は、保存的治療(CPAP、マウスピース等)が無効または困難な場合、生活習慣の改善のみで効果が不十分な場合、根治的な治療を望む場合に手術を選択します。

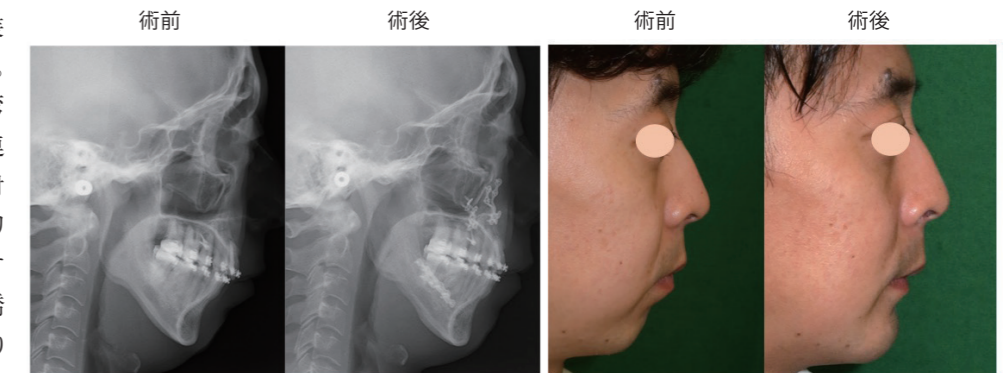
睡眠障害と社会的影響

睡眠障害は、本人のみならず家族や職場、社会全体に広く影響を及ぼします。日中の眠気や集中力の低下は、事故や生産性の低下につながり、仕事や学業にも大きく影響します。また、睡眠時無呼吸症候群は心臓病や脳卒中のリスクを高めるため、早期の診断と治療が重要です。睡眠障害の認知度は以前と比べて高まっていますが、いまだに適切な医療の受診をためらう患者も少なくありません。近年では、睡眠障害の啓発活動や専門外来の開設が進み、地域医療機関との連携も強化されています。一部のがん治療

【図3】 鼻中隔外鼻形成術



【図4】 上下顎骨切り前方移動による気道拡大と顔貌変化



成績が5年生存率90%以上であることと比較すると中等度以上の閉塞性睡眠時無呼吸症候群の5年生存率84%は今後大きな問題となることが予測されます。世界的には睡眠障害を専門とする診療区分が存在しますが、今まさに厚労省もこの分野を標榜科として承認する方向に動いているところです。

睡眠障害・睡眠外科の今後の展望

健康志向の現代において睡眠障害に対する関心はますます高まっています。そして小児から高齢者までの全年齢層において早期発見・早期治療、個々の患者に合わせたオーダーメイド医療の提供が重要です。睡眠診療においては専門医による診断技術や診療体制の充実、関連する診療科との連携強化も不可欠です。睡眠障害・睡眠外科は、患者が健康で質の高い生活を送るために、多職種が連携した包括的な医療の提供が今後ますます期待される分野となります。慈恵医大附属病院では次世代医療クリニックにおいて睡眠障害・睡眠外科として社会的なニーズに応えてまいります。

PDCA: 質の保証からさらなる改善へ



東京慈恵会医科大学 学長補佐
学校法人慈恵大学
内部質保証推進委員会委員長
柳澤 裕之

大学基準協会が定める「大学基準」は9つの基準から構成されており、その第1の基準として掲げられているのが「大学の目的・使命」です。続く第2～9の基準は、この目的・使命を実現するためにやるべきことが示されています。すなわち、自ら定めた目的・使命の実現に向けてたゆまず努力することは、大学にとって必要不可欠な営みであると言えます。

本学には、誇り高き建学の精神(理念)が存在し、この精神(理念)に基づき、大学および大学院の目的・使命を定めています。学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会では、教職員・学生一人ひとりがこの精神(理念)を深く心に刻み、教育・研究・医療の場において体現できるように、「理念行動化戦略」を展開しています。この取り組みの第一歩が「見える化スライド」であり、「慈恵の未来を語ろう! 車座トーク」です。今年度の活動内容について、右ページのTopicsで紹介していますので、是非ご覧ください。

学祖・高木兼寛先生は「医師と看護師は車の両輪のごとし」という言葉を残しています。このことは大学の運営にも当てはまり、教員と職員が“車の両輪”として機能することによって、よりよい大学が作られます。求められる役割はそれぞれの立場で異なりますが、めざす方向は一致している必要があり、それを指し示すのが建学の精神(理念)です。来る2030年、本学は創立150年を迎えます。「患者さんの思いに応える教育、研究、医療を!」のスローガンのもと、慈恵の未来を切り拓く教職員・学生が一丸となって進んでいきたい。このために、学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会では、「理念行動化戦略」をはじめ、さまざまな取り組みを展開してまいります。皆様には引き続きご協力の程よろしく願いいたします。

なお、本学は、2023年に受審した第3期大学基準協会の評価において、内部質保証システムが適切に機能していると認められました。これを受け、本号よりThe JIKEIの該当項目のタイトルを、従来の“PDCからPDCAへ”から“PDCA:質の保証からさらなる改善へ”と改め、継続的な質向上への取り組みをより明確に示すこととしました。

Topics

慈恵の未来を語ろう! 車座トークを開催

来る2030年、本学は創立150年を迎えます。社会から求められる大学、そして教職員が明るく働ける職場として進化・発展していくために、創立150年さらにその先の未来について、これから検討を始めます。慈恵の未来を切り拓く教職員・学生の皆さんのアイデアをぜひ聞かせてください!

このような呼びかけのもと、学祖の墓参の日である2025年10月4日(土)に西新橋キャンパスで、大学執行部6名、教職員27名、学生3名が集い、車座トークを開催しました。学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会が“理念行動化戦略”の一環として2023年度より企画し、今回が3回目となります。これまでの車座トークから2つのテーマを取り上げ、「誰もが共感し、大切に守り続けたい“慈恵ブランド”とは?」「大学・大学病院で働く意義、働き続ける価値って何だろう?」について語り合いました。皆さんから出された意見は将来のよりよい大学づくりに活かしていきます。

栗原 敏 理事長チーム

参加者

矢野十織(解剖学講座)、森恵莉(耳鼻咽喉科)、
徳堂早紀(第三看護部)、越智美紀(本院放射線部)、
池田幸平(給与厚生課)、記録:川崎基弘(秘書課)

テーマ 「大学・大学病院で働く意義、働き続ける価値って何だろう?」



慈恵にいて、新たな知識や発見を得られ、医療を前進させているという実感も得られている。そこに付加価値を付けてもらえたらなおよい。

給与がモチベーションになっている職員もいるが、折角、大学病院で働き学んできたのにもったいないなあと感じる。

産休・育休が取りやすく出産後も働きやすい。復職後も覚えた技術をロスせず維持してもらい取り組みを部署で進めている。

任期に縛られずどっしり構えてゆっくり研究できることや、学生と卒業後もつながりを持つことは魅力だと思う。

福利厚生は、多くの職員に利用されているのか。イントラネットに掲載する以外にも、入職前に書面で案内するなどアピールしていく必要がある。

栗原理事長からまとめの言葉

教員・学生間、医師・患者間、多職種間の距離感が非常に短く、そこから新しい良い研究や文化が生まれるのは慈恵が築いてきた大きな財産です。現在の慈恵は先輩から受け継いだものや皆さんの努力によって築かれてきたものであり、これからも大切にしていきたいと思えます。それぞれの職種をリスペクトしてお互いが成長していく方向を目指していきたいと思えます。私の立場からすると非常に厳しい意見も多く聞かれましたが、財政が厳しい中でどうやって皆さんの待遇・処遇をできるだけ改善できるかを常に考えています。本学の現状をよく考えて、次に何をやるべきか、みんなが合意し、みんな協力してやっていく、それが私たちの進むべき道でないかと思えます。

松藤 千弥 学長チーム

参加者

麻生多聞(社会科学研究室)、根岸舜介(本院看護部)、
小原健輔(本院リハビリテーション科)、北里景子(葛飾業務課)、
守田涼真(看護学科3年)、記録:安部一之(教員・医師人事室)

テーマ 「誰もが共感し、大切に守り続けたい“慈恵ブランド”とは?」

「病気を診ずして病人を診よ」の意識が当たり前のようにできる大学。このことは大きな武器のように感じるし、これからも続いて欲しい。

地域に根付いた病院だからこそ、建替えに進むことができた。慈恵に行けば大丈夫と認知され、地域のブランドとして確立されていたと言える。

ブランドの定義にある「意味のある差」は慈恵の“人”なのだと思う。患者さんや家族が慈恵のファンになり、共感されていくことがブランドにつながる。

みんなで良い病院にしたいという志の中で患者さんを診ているところが慈恵ブランドとして大切。患者さんに選んでもらえることにつながっている。

学長のリーダーシップと学生・教職員に寄り添う姿勢が私たちに伝わっている。学長の存在こそが慈恵ブランドの重要な一要素になっている。



松藤学長からまとめの言葉

患者中心の医療を実践している点、そしてそのような志を持つ医療人を育成している点が本学の重要な特徴であること、また、実際に現場で体現されていることが共有されました。これは、慈恵ブランドの内部にいる者が日頃から本学の理念を意識し、各職場が共通の目的を持ち同じ方向を向いていること、さらにリーダーが率先してその姿勢を示していることによると強く感じました。今後の課題は、このことをどのように誰に向けて発信していくかという点です。慈恵ブランドはさまざまな領域のブランドが集合して形成されています。それぞれのブランドの情報発信について検討することが今後ますます重要になると感じました。

理念行動化戦略とは

教職員・学生一人ひとりが建学の精神を常に念頭において日々の活動に取り組むことで、本学の価値を高める活動。“慈恵ブランド”をめざす。

- 見える化** イン트라ネット、電子カルテ、研修会等で「見える化スライド」を掲載
- 自分ごと化** 「見える化スライド」の新たなデザインを教職員・学生から募集
- 文化化** 学祖の墓参の日に慈恵の未来を語ろう！車座トークを開催



小島 博己 病院長チーム

参加者 佐竹澄子(基礎看護学)、大橋伸介(小児外科)、杉山萌々子(本院看護部)、池松大輝(柏リハビリテーション科)、高野綾子(本院業務課)、記録: 滝川祐(本院管理課)

テーマ 「大学・大学病院で働く意義、働き続ける価値って何だろう？」



安定した基盤のある大学だから、成長につながる研修機会もある。総合的に比較検討すると、安定の魅力が勝る。

臨床現場で卒業生に会い、成長した姿を見られることは嬉しいし、やりがいも感じる。働き続ける理由になっている。

高度な専門分野があるのは大学病院ならではの。大学病院で働き続けたい反面、体力面や収入面で働き続けることの厳しさを感じることもある。

「とりあえず3年頑張ろう」から5年、7年と働き続けるには、患者さんとの関わりを深める経験を積んでいると感じること、やりがいが大切。

昇級のタイミングで、マネージャーとしてのキャリアパスだけでなく、プレイヤーとしてのキャリアパスがあってもよい。

小島病院長からまとめの言葉

大学に残りたいが、諸事情から残りづらいつらいつらの発言が聞かれました。看護師や事務職は3～4年で退職する傾向が見受けられ、然るべき対策を講じて慈恵愛を高め、やりがいにつなげていくことが大切です。本学の職員は気づきを与えると、それを受け入れる素直さがあります。中間層を厚くすることで職場を良くしていけると感じます。マンパワー不足を解消するアイデアをコンペで募り、優れたものを大学が支援するのはどうかとの提案がありました。新しい発想、若い皆さんの意見が採用されれば、現場が盛り上がり、承認欲求が満たされることで職場が活性化される好循環が期待されます。

横尾 隆 副学長チーム

参加者 務基理恵子(成人看護学)、渡邊健太郎(脳神経外科)、中村駿弥(葛飾看護部)、菊田奨之(本院薬剤部)、石井大望(新橋健診センター)、記録: 横山亮(人事課)

テーマ 「大学・大学病院で働く意義、働き続ける価値って何だろう？」

慈恵以外を経験して戻ってきたきっかけは人が温かく、求めてくれたこと。ファミリー感が強く、“慈恵人”という言葉があるのはとてもよい。

キャリアアップの悩みに合わせた研修が用意されているのはありがたい。ルーチン業務に追われて成長できる情報をキャッチしそびれることがある。

スキルアップには大学病院が良いが、条件面に引っ張られてしまう若手が多い。職員が最新の医療に関わりつつ、かっこよい姿を見せることが大切。

組織が大きすぎて各部署の魅力が表に出て来ることが少ない。情報を外へ展開すること、中で共有すること、どちらも大事。使い分けしていくとよい。

ホームページだけでは見えてもらえない。もっとオープンにSNSも取り入れた方がよい。リスク管理と積極的広報を組み合わせた広報戦略を。

横尾副学長からまとめの言葉

私のように慈恵卒でずっと慈恵にいる者には、横のつながりが強く情報交換もうまくいっているように見えますが、他部署の情報をお互い知らないことが多いことがわかりました。それぞれの前向きな取り組みが情報共有されていない、慈恵人としてファミリー感を以て取り組んでいるのに伝わっていないのは残念です。慈恵に来てくれる方は条件面よりもスキルアップや成長を主眼に置いた方が多いですが、条件面を主眼に置いた方の満足度をいかに上げるかが課題です。SNS等を用いた情報交換ツールを作り、働きやすい雰囲気やスキルアップの機会があることを在職者や入職希望者に伝えられるとよいと話し合いました。



岡部 正隆 副学長チーム

参加者 遠藤里子(小児看護学)、山中修一郎(腎臓・高血圧内科)、黒田祐規(第三臨床工学部)、井草誠彦(教育センター)、丸本從容(医学科3年、記録: 加塩大吾(研究推進課))

テーマ 「誰もが共感し、大切に守り続けたい“慈恵ブランド”とは？」



本学には多くの強みがあるが、アピール力が弱い。SNSや動画配信などの広報チャンネルが十分に整っておらず、コンテンツの訴求力も弱い。

本学のアピールポイントをブランドとして示すには、本学で実際に行っていることをそのまま伝える方が分かりやすいかもしれない。

地域イベントで医務室を担当するなど、地域貢献の機会も多い。港区との包括連携協定をはじめ、行政との連携は本学のアピールに有効だと思う。

地域住民への教育活動もアピールになる。各講座が行っている市民公開講座などを大学として管理・支援する部門があってもよいのでは。

研究内容の発信は、病院の集患にはつながりにくいかもしれないが、学生募集に効果があると思う。

岡部副学長からまとめの言葉

本学の強みは多職種間でコラボレーションしやすい点にあり、人とのつながりや心温まる場面が多くあるものの、これらを発信する力が不足しています。「病気を診ずして病人を診よ」の教えについて、その意味を学外の方たちに丁寧に伝えていく必要があります。また、各部署で良い取り組みを行っているのに相互に共有されていない現状に対して、情報発信を評価につなげ、情報発信を促す仕組みを設けたらとの提案がありました。大学はSNSの活用にも慎重すぎる面もありますが、大学全体として広報戦略を立案し、情報発信を戦略的に進める必要があります。学外で副業的に支援できる人材を活用するなどの工夫が求められます。

柳澤 裕之 委員長チーム

参加者 山田幸司(生化学講座)、原聖太(柏看護部)、黒谷健吾(本院放射線部)、中島秀司(人事課)、大野雛子(慈恵看護専門学校3年)、記録: 實原靖子(企画課)

テーマ 「誰もが共感し、大切に守り続けたい“慈恵ブランド”とは？」

診療に携わる者全員が建学の精神を根底に同じ方向を向いて診療すること、患者さんのために動くことが他学に負けない慈恵ブランドになる。

慈恵ブランドを広めるには攻めの姿勢が必要。診療看護師(NP)のニーズが高まっており、本学でも体制を整備していく必要があるのでは。

研修や留学に出て技術を学び、本学に戻ることができる制度があれば、働き方改革に貢献できるし、大学病院としての強みにもなるのでは。

外に出ると、慈恵のブランド力は弱い。守り続けたいものは攻めることで守られるのではと思う。どんだんに出て行くことが必要なのでは。

地域の方に名前を知っていただくことも大切。慈恵の名前を背負って地域のイベントなどに参加する機会を設けてもよいのでは。

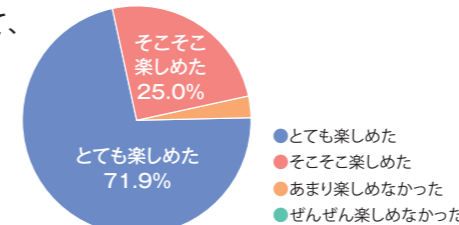
柳澤委員長からまとめの言葉

慈恵ブランドは研究、診療、事務、学生など各所属領域によって異なりましたが、根底には共通して建学の精神があって、つながっていると感じました。本学の理念について社会から理解を得られるように発信していく必要があり、広報の強化が求められます。本学はさまざまな改革を実行してきましたが、これからは時代の流れに合わせて対応していくことで、慈恵ブランドが育っていくのではないのでしょうか。皆さんから挙げられたことについては、然るべき組織に上げて具現化していきたいと思えます。

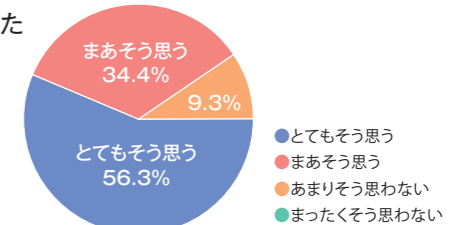


参加後のアンケート結果

今回参加してみて、いかがでしたか。(32件の回答)



車座トークを来年度また開催するとしたら、身近なひとに参加を勧めたいと思いますか。(32件の回答)



大学執行部メンバーやこれまで接点がなかった方たちと知り合い、新たな発見を楽しんでいただけたようです。2030年に創立150年を迎えるにあたって、これからも車座トークを開催する予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

慈恵医大西部医療センター

「つなぐ」を原点に未来へ

2026年1月、長年にわたり地域医療の要として歩んできた東京慈恵会医科大学附属第三病院が、「東京慈恵会医科大学西部医療センター」として新たに生まれ変わりました。新本館棟の竣工を経て、医療・教育・研究の三本柱をさらに強化し、地域に開かれた未来志向の医療拠点として新たな一歩を踏み出しました。このリニューアルの根底にあるキーワードは「つなぐ」です。診療をつなぐ、地域をつなぐ、人生をつなぐ、そして慈恵大学の歴史を未来へとつなぐ——。その一つひとつの「つながり」が、これからの医療を支える礎となります。



外観

24時間救急体制



救急車専用入口

診療をつなぐ — チーム力で支える高度医療

西部医療センターでは、新設された「脳神経・脳卒中センター」をはじめ、診療科間の連携をこれまで以上に強化します。脳神経内科と脳神経外科が垣根を越えて協働し、24時間365日対応可能な診療体制を構築します。最新鋭のMRI・CT装置、血管撮影装置、ロボット支援手術の導入など、最先端技術を駆使しながら、各科が連携して安全で精密な治療を実現します。

このような診療科横断の体制により、この地域において急性期から回復期、在宅までを一貫して支える「シームレスな医療」を実現します。さらに、得られた臨床データを教育・研究に活かし、診療現場での成果を学問的発展へとつなげる循環をつくっています。

医師、看護師、薬剤師、検査技師、栄養士、ソーシャルワーカーなど、多職種が一体となって一人の患者を支える——それが、当院のチーム医療です。診療科や各部門がつながることで、医療の質を高め、患者にとって最適な治療を提供することができます。

高度な治療設備



3階 IVR多目的血管撮影装置



3階 手術室



3階 集中治療室

地域をつなぐ — 信頼と共感で築く医療の輪

第三病院として70年以上にわたり、地域の住民とともに歩んできた歴史は、西部医療センターに受け継がれています。救急医療から専門診療、在宅支援まで、地域のあらゆるニーズに応え、「困ったときにまず相談できる病院」として信頼を築いてきました。この関係性は単なる医療提供者と患者の関係にとどまらず、互いに支え合う「地域共同体」としての絆でもあります。

リニューアル後も、地域医療の要として、診療所や訪問看護、介護施設等と連携し、患者を中心にした切れ目のない医療を提供していきます。病院の中だけで完結しない、地域とともに患者を支える「つながる医療」が、これからの当院の姿です。

また、2023年3月に「慈恵第三健康推進センター」が開設され、予防医療・健康づくり・地域教育の拠点として活動を開始しました。疾患予防や健康寿命の延伸を目的に、地域住民との協働を重ねながら、医療の“入口”を広げています。病気を治すだけでなく、「健康を守り、未来を育む」医療を目指します。

人生をつなぐ — その人らしい生き方に寄り添った医療の実践

西部医療センターでは、出産を支える周産期医療をはじめ、乳幼児期の健やかな成長を見守る小児医療、就労期の心身の健康を支える専門診療、そして高齢期の生活の質を守る総合医療まで、人生のあらゆる段階に応じた医療を提供します。

その象徴のひとつが、本学初となる「緩和ケア病棟」です。全室個室21床を備え、患者さんとご家族が穏やかな時間を共に過ごせる空間を整えました。狛江・調布・世田谷エリアで初の大学病院による緩和ケア病棟として、がん患者の終末期ケアや介護者支援、教育の拠点としても重要な役割を担っています。人生のはじまりから最期まで、その人らしい生き方を支え、心を結び、人生を豊かにつなぐ医療が実践されます。

安心の入院生活



一般病棟



一般病棟(個室)



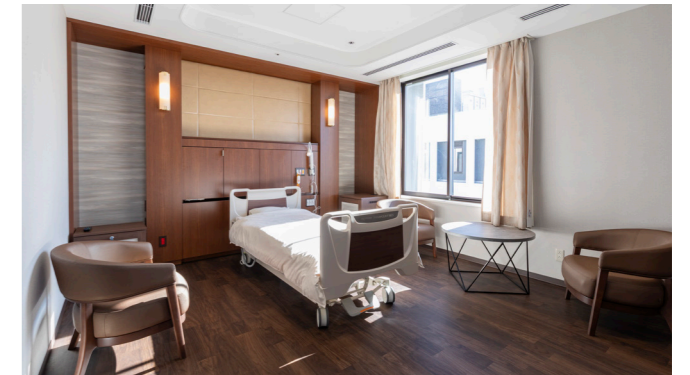
7階 緩和ケア病棟(有料個室)



7階 緩和ケア病棟(キッチン)



病棟フロア・スタッフステーション(6階)



7階 特別室A(有料個室)

検査・診断エリア



2階 内視鏡部



2階 中央検査部 採血室



1階 放射線治療室

外来診療エリア



2階 外来フロア カウンター



2階 外来フロア

受付・共用エリア



1階 エントランスホール



1階 総合受付



1階 ガジュまるホール 入口

歴史をつなぐ

伝統と革新の融合

東京慈恵会医科大学が掲げる理念の根幹には、「伝統と革新の両立」があります。本学の歴史を振り返ると、そこには「変わらぬ価値を守り、変えるべきところに挑む」という姿勢がありました。最先端の医療技術を導入する「科学の力」と、患者さん一人ひとりに寄り添う「人を思う心」を融合させながら、本学は歩みを進めてきました。医療が高度化し効率化が進む一方、患者の心理・社会的側面への配慮が薄れることのないよう、患者や家族に寄り添い、思いを汲み取る「慈恵らしさ」を守り続け、医療・教育・研究を通じ社会に貢献します。

未来につなぐ

学びと技術が創る新しい医療のかたち

今後、少子高齢化のさらなる進行により医療ニーズはますます多様化・複雑化していきます。その中で、AIやビッグデータ、遠隔医療などのデジタルトランスフォーメーション(DX)

は、医療のあり方を根本から変えていく重要な要素となります。特定機能病院である本院を中心に、今後、当院においてもAIなどのデジタル技術を活用し、DXを推進することで、医療の質と効率を向上させます。また、大学附属病院として若手医師、医学生、看護学校、専門職種学生を積極的に受け入れ、次世代を担う医療人を育成し、学びと技術が一体となった持続可能な医療を築いていきます。

おわりに

「つなぐ」から始まる新たな歴史

東京慈恵会医科大学西部医療センターの誕生は、地域医療の未来を照らす新たな灯です。これまでの歩みを大切にしながら、診療、地域、人生、そして歴史を未来に「つなぐ」こと、その積み重ねが、医療の本質を支え続けます。

医療とは、人と人、心と心を結ぶ営みです。慈恵医大西部医療センターは、これからもその原点を忘れず、地域に安心と希望を届け、笑顔を明日につなぐ医療を実現していきます。

そして、次の150年に向けて——慈恵大学の志を未来へと「つなぐ」新たな物語が、いま始まりました。

療養環境



4階 屋上庭園



4階 リハビリテーション室

詳しくはこちら▶



Nursing

若者の健康を未来へのギフトに

— JANPセンターでのプレコンセプションケアの取り組み —



東京慈恵会医科大学
看護学科 教授
松永 佳子

プレコンセプションケアが
求められる背景

近年、将来子どもを望むかどうかにかかわらず、若い世代が自らの心身の健康と向き合い、よりよい人生設計を描くための考え方として「プレコンセプションケア(PCC:妊娠前からの健康管理)」の重要性が高まっています。地域連携看護学実践研究センター(JANPセンター)では、狛江・調布・世田谷を中心に医師会、薬剤師、養護教諭、西部医療センター、慈恵西部健康推進センター(JHOPセンター)など多職種・多機関と連携し、地域ぐるみでPCCの普及啓発を進めています。

地域調査で見えた
若者のヘルス・リテラシーの課題

2023年度に実施した学習会では、若者の健康課題や月経・ワクチン接種に関する知識格差が大きいことが共有されました。

さらに、JANPセンターが行った狛江・調布の地域住民調査では、若年層のヘルス・リテラシーの低さが明らかになりました。この結果は、地域社会として若者に適切な健康情報を届ける必要性を強く示すもので、PCC啓発活動をさらに後押しする重要な根拠となりました。

発達段階別の「三つの柱」で
情報を整理

JANPセンターのPCCの啓発事業の特徴は、「発達段階別」に整理して提供する点にあります。①食と体重、②予防接種、③成長に伴う心身の変化という三つの柱に基づき、4歳から8歳、9歳から14歳、15歳から18歳、19歳以上の4つの発達段階で必要となる信頼性の高い情報を集約し、ホームページで分かりやすく提供できるようにしました。

これらは大学独自の教材というより、多職種の視点から「正確でアクセスしやすい情報」を再整理したもので、家庭や地域で健康について話すきっかけづくりを目的としています。

地域イベントと公開講座で
広がる対話の輪

2024年および2025年の調布市の「まちかつフェス」に参加し、PCCカードを配布し、住民からは「子どもにも伝えたい」「学校でも扱ってほしい」といった声が寄せられ、地域との対話が大きく広がりました。

また、2025年9月には公開講座をハイブリッド形式で開催し、保育士、養護教諭や医療者が一堂に会してPCCの最新知見を共有しました。その後オンデマンド配信も行い、より多くの方々にプレコンセプションケアを知っていただく機会を広げるための取り組みとしました。今後はJHOPセンターやJANPセンターのみんなの保健室、みんなのまなび場とも連携し、相談事業や教育プログラムをさらに充実させていく予定です。

個別支援と地域連携で
若者の未来を支える

本学附属の母子医療センターでは「プレコンセプションケア外来」も開設され、基礎疾患のある妊娠希望者や若年層への個別支援を実施しています。啓発と個別支援を両輪として進めることで、若者の健康リテラシー向上や地域の健康格差縮小につながることを期待されます。

建学の精神を未来へ

「病気を診ずして病人を診よ」——この建学の精神のもと、JANPセンターは地域とともに、若者が自分らしく生きられる未来を支えるPCCの普及に努めています。今後も多職種・多機関との協働を深めながら、地域の健康づくりに貢献してまいります。

専門医紹介動画のご紹介

慈恵大学では、患者さんにとってプラスになる医療関連の情報をお届けできるよう、動画による情報発信も積極的に行っております。
今回ご紹介する専門医紹介動画以外にも、「みんなの健康教室(本院)」や公開講座などの動画も配信しておりますので、ぜひご覧ください。

眼科

40歳を超えたら1年に1回は眼科健診を!

～緑内障・早期発見・治療介入が重要～



眼科
中野 匡 診療部長

緑内障は視野が徐々にかけてくる病気です。しかし、初期ではほとんど自覚症状がないため、治療せずに放置する方も多いのですが、重症では失明の危険もあります。40歳頃から発症が増えるといわれており、定期的な検査で早期発見・治療を始めましょう。
緑内障になると視野の上側か下側から徐々に視野が欠けて、最終的には中心部分が見えなくなります。ところが両目で見ると、片方の目の視野が欠けていても気づかないケースがほとんどです。緑内障発症の主な原因として、遺伝や近視、年齢、高い眼圧などが挙げられます。しかし、日本人は正常眼圧緑内障が多いので、眼圧の数値が正常範囲内だといっても安心はできません。

【両眼視で視野障害を補正する】



進行した緑内障でも意外と気がつかない

成人失明原因第1位の緑内障

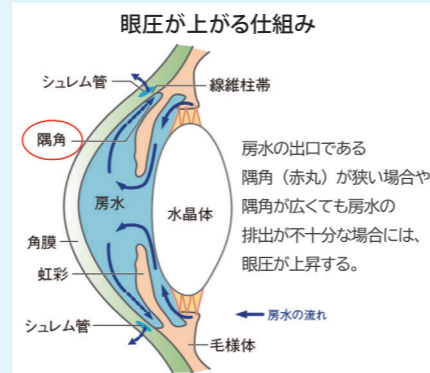
～最先端検査と治療で進行を抑制～



眼科
小川 俊平 診療医長

成人の失明原因第1位である緑内障は、初期には自覚症状が乏しく、緩徐に進行するため、現在、緑内障を持つ患者さんの50~90%は未診断で治療を受けていません。このため健康診断は重要で緑内障が疑われる場合には詳しい検査が必要です。緑内障と診断されたら、眼圧を下げる治療が必要で、薬物療法としての点眼薬、レーザー治療、そして手術療法など、病状によって組み合わせ治療していきます。

緑内障の唯一の治療法は眼圧を下降させることです。「薬物治療」「レーザー治療」「手術」を組み合わせることで眼圧を下降させ維持します。治療は症状の進行により、更に強化が必要です。治療しても視野障害が進行する場合には、薬物療法の強化とともに侵襲の小さな「レーザー治療」や「流出路再建術」から、「ろ過手術」「チューブシャント手術」など、患者さんの状態に適した治療・手術方法を選択する必要があります。



健診や人間ドックで緑内障の疑いを指摘された場合は、お気軽にお問合せください。

動画概要



40歳を超えたら1年に1回は眼科健診を!
～緑内障・早期発見・治療介入が重要～

眼科 中野 匡 診療部長

成人失明原因第1位の緑内障
～最先端検査と治療で進行を抑制～

眼科 小川 俊平 診療医長



JIKEI VIDEOS

詳細については、QRコードを読み取り動画をご視聴ください。

JIKEI VIDEOS

The JIKEI News Flash

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

2025年6月～2025年12月

6月

柏病院薬剤部 日高さん表彰

第18回日本緩和医療薬学会年會にて、優秀演題賞を受賞



緩和薬物療法認定薬剤師である日高あづみさんが第18回日本緩和医療薬学会年會において、演題「子宮体がん患者の高Ca血症に対して原発性副甲状腺機能亢進症を疑った1例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。

緩和ケアチームの活動を通して、がん患者における高Ca血症の新たな原因が潜在していることを経験できた症例です。



7月

宮崎市立穆佐小学校本学招待旅行

穆佐小学校の児童及び教諭の本学招待旅行が49回目を迎える

学祖高木兼寛先生の出身地である宮崎県宮崎市高岡町の穆佐小学校の児童及び教諭の本学招待旅行は2025年7月28日～7月30日に行われ、今年で49回目を迎えました。初日は松藤学長、岡部副学長(アウトリーチ活動推進委員長)、病理学講座・坂谷教授の講話を聴講し、史料室や附属病院を見学の後、岡部副学長の案内により解剖学講座研究室を訪ねました。児童からは積極的に質問がされ、非常に高い意欲が伺えました。2日目は東京ディズニーランド観光、最終日は青山霊園にて学祖の墓参を行った後、劇団四季「アナと雪の女王」を鑑賞しました。児童たちは旅行を通して高木兼寛先生そして慈恵大学について多くを学び、郷土が生んだ偉人の功績を胸に刻みました。



8月

宮崎市「高木兼寛顕彰事業」特別大使

学祖の出身地、高岡町をはじめ宮崎市内各中学校から
14名が来校され、改めて、高木兼寛先生の功績を再認識されました

2025年8月5日(火)、特別大使として、学祖高木兼寛先生の出身地である高岡町をはじめ宮崎市内各中学校からの代表生徒と教職員の他、宮崎市教育委員会教育局長等14名が来校されました。本事業は今年で24回目を迎え、松藤千弥学長、岡部正隆教授より、高木兼寛先生の偉大な功績や本学が進めている医学教育について聴講し、学内を見学しました。特別大使一行は、各見学場所での説明を熱心に聞き入り、ノートを取り、写真を撮影するなど、改めて、高木兼寛先生の功績を再認識したものと思われます。



北里大学名誉教授 相澤好治先生 講演会開催

高木兼寛と北里柴三郎の“医”志
創立150年の原点に立ち返り、“医のこころ”を見つめ直す

2025年9月2日、東京慈恵会医科大学創立150年記念第1回講演会(仮称)が大学1号館講堂にて開催されました。講師には北里大学名誉教授 相澤好治先生をお迎えし、「高木兼寛と北里柴三郎の“医”志」を演題にご講演いただきました。高木兼寛による脚気克服と海軍衛生改革、そして本学創立に込めた「実学と奉仕」の理念、さらに北里柴三郎の破傷風菌の純培養・血清療法・ペスト菌発見など日本細菌学の礎を築いた功績が情熱的に語られました。二人の医学への信念と社会貢献の精神を通して、衛生学と予防医学の原点を見つめ直す機会となり、参加者は慈恵の建学の精神を新たに胸に刻み直しました。



9月

理念行動化戦略「見える化スライド」 新たなデザインを投票で決定、表彰式を実施

2030年に創立150年を迎えるにあたり、本学がさらに進化・発展していくため、学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会を中心に「理念行動化戦略」を進めています。この一環として2022年度より「患者さんの思いに応える教育、研究、医療を」をスローガンとした「見える化スライド」活動を展開してきました。前回2023年度に公募で選ばれたデザインが2年を迎えるため、新たなデザインを教職員・学生から募集し、応募された12作品からみなさんの投票により決定しました。

第1位に選ばれた研究推進課・阿久津里奈さんの作品は、本学の歴史と未来をつなぐ象徴として教育・研究・臨床の場面を組み合わせ、病棟の渡り廊下によって伝統を継承しつつ未来へと進む懸け橋を表したものです。2025年9月10日の拡大教授会において表彰式が行われ、栗原理事長より表彰状が贈られました。「見える化スライド」は2025年9月から新たなデザインに生まれ変わり、活用されています。



9月

9月

白衣授与式開催 (今年度より希望された保護者に参加頂く)

4年生111名が共用試験に合格し、
医療人としての自覚を胸に
臨床実習へ臨みます

2025年9月26日(金)午後2時より、大学1号館講堂(3階)において、医学科の白衣授与式を執り行いました。白衣授与式は、共用試験(CBT及びPre-CC OSCE)に合格し、臨床実習を開始する、4年生(111名)を対象に、医療人としての自覚を新たにする式典です。また、今年度、初めて保護者を招待し、約80名の方が参列されました。

式典では、松藤学長より式辞を、栗原理事長より祝辞を頂き、横尾医学科長、矢野副院長、斎藤副院長より、学生一人ひとりに白衣が授与されました。続いて、矢野副院長、斎藤副院長から、臨床実習に向けた激励やはなむけの言葉が述べられ、医師としての心構えや臨床現場でのルール・マナーについての説明がなされました。

次いで、真新しい白衣に身を包んだ学生代表3名から、臨床実習に向けた宣誓が述べられました。

終わりに、横尾医学科長より、激励を込めた閉式の辞が述べられ、学生たちにとって臨床実習の新たな第一歩となりました。

宣誓文

- ① 私たちは、医学・医療の学習者として、能動的に学び、成長します。
- ② 私たちは、未来の医療を担う者として、仲間たちと切磋琢磨します。
- ③ 私たちは、医療チームの一員として、敬意と感謝を示し、実に行動します。



2025年度 東京慈恵会医科大学 白衣授与式

第142回成医会総会 「成医会優秀ポスター発表賞」及び 「成医会学生ポスター発表賞」の受賞について

10月

「成医会優秀ポスター発表賞」及び「成医会学生ポスター発表賞」は、成医会員の研究振興と発表者の意欲を高める目的で、一般演題(示説発表)より各3篇を選び、授与されるものであります。

第142回成医会総会においては、一般演題(示説発表)に47篇の応募があり、次の6篇(「成医会優秀ポスター発表賞」「成医会学生ポスター発表賞」各3篇)が選出され10月10日(金)、松藤千弥会長より賞状及び副賞が授与されました。



【成医会優秀ポスター発表賞】(3篇)

受賞演題1

「骨格筋細胞内カルシウム放出機構の制御に着目したデュシェンヌ型筋ジストロフィーの新規治療法開発」

高橋 まりな¹、三木 祥史¹、山澤 徳志子²、谷端 淳³

(1. 医学科4年 2. 総合医科学研究センター 基盤研究施設 3. 分子生理学講座)

受賞演題2

「宇宙環境はマクロファージの遺伝子発現に高度酸化ストレス類似の影響を与える」

戸部 薫^{1,2}、本城 万由佳¹、暮地本 宙己¹

(1. 細胞生理学講座 宇宙航空医学研究室 2. 医学科4年)

受賞演題3

「空間・シングルセルトランスクリプトーム統合解析による特発性肺線維症の新規治療標的PAK2の同定」

平野 悠太^{1,2}、吉田 昌弘¹、渡邊 直昭^{1,2}、藤本 祥太¹、松林 沙知¹、高柳 昇³、河端 美則⁴、岡本 康司⁵、皆川 俊介¹、桑野 和善¹、荒屋 潤¹、山本 雄介²、藤田 雄^{1,6}

(1. 呼吸器内科 2. 国立がん研究センター研究所 病態情報学ユニット 3. 埼玉循環器呼吸器病センター 呼吸器内科 4. 埼玉循環器呼吸器病センター 病理診断科 5. 国立がん研究センター研究所 がん分化制御解析分野 6. 総合医科学研究センター 次世代創薬研究部)

【成医会学生ポスター発表賞】(3篇)

受賞演題1

「ホワイトカラー労働者における貧血と自覚症状との関連性の評価」

飯國 敏充¹、穂鷹 洸介¹、島崎 崇史²、山内 貴史²、須賀 万智²

(1. 医学科4年 2. 環境保健医学講座)

受賞演題2

「大建中湯を構成する生薬山椒は、乾姜によるTRPV1チャネル活性をpositive allosteric modulator (PAM)として増強し、腸管運動を促進させる」

上田 梨乃^{1,2}、宮野 加奈子^{2,3}、成島 慧美^{2,4}、野中 美希^{2,5}、上園 保仁^{2,5}

(1. 医学科4年 2. 産学連携講座 疼痛制御研究講座 3. 順天堂大学 薬学部 薬物治療学研究室 4. 北里大学 薬学部 生命薬科学研究室 5. 先端医学推進拠点群 痛み脳科学センター)

受賞演題3

「宇宙環境滞在後のマウス肝臓における脂質代謝変化への人工重力の影響」

中山 大河^{1,2}、原口 高伸^{1,3}、重石 萌衣^{1,3}、石川 桜妃^{1,2}、瀧澤 玲央¹、齋藤 英希¹、南沢 享⁴、暮地本 宙己¹

(1. 細胞生理学講座 宇宙航空医学研究室 2. 医学科5年 3. 医学科6年 4. ピューティ&ウェルネス専門職大学)

高木家墓参

高木兼寛先生の墓参が青山霊園にて執り行われました

10月

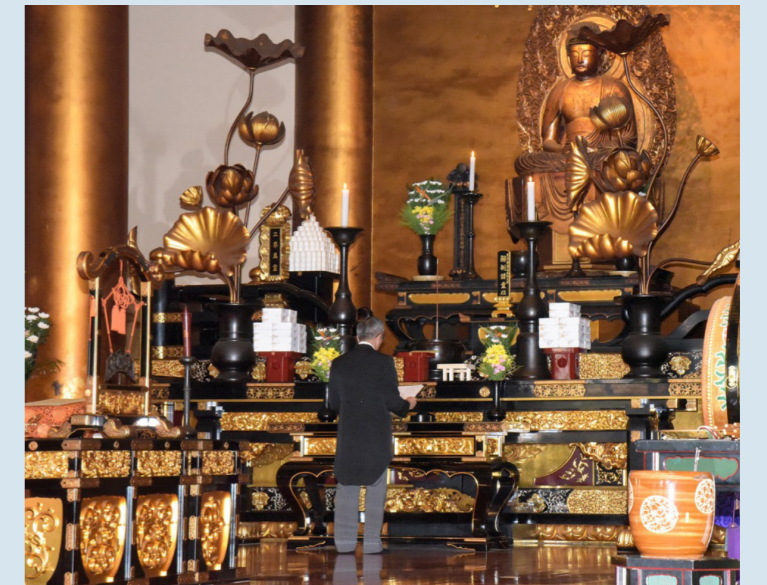
高木兼寛先生の墓参が2025年10月4日(土)、青山霊園にて執り行われました。栗原敏理事長をはじめ、松藤千弥学長、理事、副学長、同窓会、医学科・看護学科・看護専門学校の教職員や学生代表など約100名が参列しました。その後、如水会館にて遺影を囲み懇親会を行いました。松藤学長のご挨拶では、高木兼寛先生の功績及び患者のことを考えて医療にあたるプロフェッショナルの重要性について触れられ、また、学生代表挨拶では各々が医療者を目指し日々勉学に励んでいることについて実体験を交え熱く語られました。参加者は高木兼寛先生の功績を称えながら実りある親睦を深めることができました。



10月



産婦人科学講座 岡本愛光教授からの
ご遺体の医学への貢献報告



松藤学長からの祭文

第121回 解剖諸霊位供養法会

958霊位とご遺族に敬意と感謝の意を表しました

2025年10月28日(火)、第121回解剖諸霊位供養法会が増上寺にて執り行われました。この一年間で解剖に供せられたご遺体は958霊位、明治15年8月以来の解剖総数は47,457霊位となりました。松藤千弥学長より祭文が読み上げられ、御礼のご冥福をお祈りし、尊い決心をされた

ご本人とご遺族に敬意と感謝の意を表しました。次いで教授会を代表し、産婦人科学講座 岡本愛光教授よりご遺体の医学への貢献について報告が述べられ、故人のご遺志に応えるべく、医学教育の充実と医学・医療の発展のため研鑽を重ねることをご霊前に誓いました。

10月 西部医療センター 竣工式

2025年10月24日、「東京慈恵会医科大学西部医療センター新本館棟竣工記念式典」が盛大に執り行われました。長年にわたる関係各位のご尽力とご支援により、無事にこの日を迎えられたことに深く感謝申し上げます。

式典には、栗原敏理理事長、松藤千弥学長、平本淳病院長をはじめ大学関係者、同窓会役員、設計施工関係者、並びに松原俊雄狛江市長、長友貴樹調布市長、中村哲也世田谷副区長など、行政、諸官庁関係者、医師会、地元自治会役員等のご来賓にご列席いただきました。

新本館棟の竣工は、地域に開かれた「慈恵医大西部医療センター」としての第一歩であり、最新の医療機器と高い安全性を備えた患者中心の医療環境を実現します。脳神経・脳卒中センターや緩和ケア病棟の機能を有し、小児周産期から緩和ケアまで切れ目のない医療を提供します。また、教育・研究機能も充実し、「病気を診ずして病人を診よ」の本学の理念を次世代へと受け継いでまいります。

式典後の内覧会では、雨上がりの空に虹が架かり、新病院の未来を象徴するような光景となりました。教職員一同、地域に安心と希望を届ける医療の実現に一層努めてまいります。



定礎除幕式



2階外来フロア

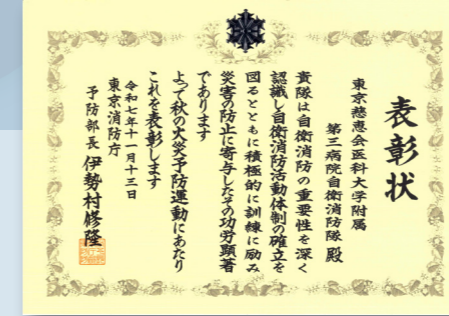


玉串奉奠 平本淳院長



祝 竣工 東京慈恵会医科大学西部医療センター 新本館棟

11月

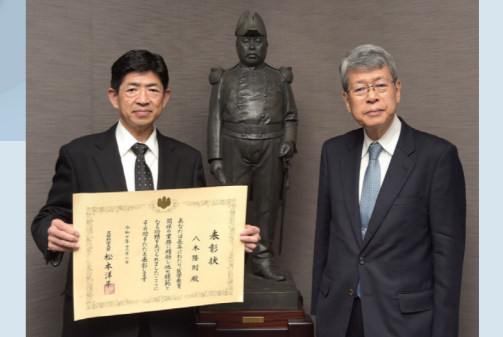


表彰状 自衛消防活動体制の確立と 災害防止への寄与

第三病院に東京消防庁予防部長から表彰状が贈呈されました

自衛消防の重要性を深く認識し、自衛消防活動体制の確立を図るとともに積極的に訓練に励み、災害防止に寄与したその功労が顕著であったとして秋の火災予防運動にあたり、2025年11月13日に東京消防庁伊勢村修隆予防部長からの表彰状が授与されました。

12月



表彰状 令和7年度 医学教育等関係業務功労者表彰

医学教育等関係業務功労者として施設課 八木隆則さん 表彰される

令和7年度医学教育等関係業務功労者の表彰式が、2025年12月2日文部科学省3階講堂で行われました。

本学からは施設課の八木隆則さん(営繕員)が文部科学大臣から表彰されました。

八木さんは30年以上にわたり環境整備等の業務に関し、顕著な功績があったとして表彰されました。

12月

第9回東京慈恵会医科大学・東京理科大学 合同シンポジウム・ワークショップ

今年はオンラインにて参加した日本医科大学も含め、総勢109名が、医理工業分野における教育・研究活動の連携推進を目的に開催されました

2025年12月6日(土)、本学2号館講堂およびオンラインにて「第9回 東京慈恵会医科大学・東京理科大学合同シンポジウム・ワークショップ」が開催されました。今年度は、日本医科大学からもオンラインでの参加があり、総勢109名が参加しました。本シンポジウムは、医理工業分野における教育・研究活動の連携推進を目的として、両校の連携協定に基づき毎年開催されています。

今回は、医療DXや新学部創設など両校のトピックを扱う講演とパネルディスカッションを含む第1部のあと、サブタイトル「出会いが研究を加速する―首都で育む異分野共創」のもと、第2部として、マッチングの更なる推進をはかるためのワークショップを実施しました。質疑応答や意見交換が活発に行われ、盛況のうちに終了しました。



12月

2025年度研究スタートアップ奨励賞授賞式

9名のフェローの応募、プレゼンテーションの結果、
守山昌利助教と近藤尋隆助教に本賞が授与されました

今年度よりスタートした研究スタートアップフェロー制度において、応募された9名のフェローによるプレゼンテーションの結果、研究スタートアップ奨励賞受賞者が決定しました。授賞式は2025年12月10日(水)の拡大教授会議で行われ、守山昌利助教(附属病院・リウマチ・膠原病内科)と近藤尋隆助教(柏病院・泌尿器科)に本賞が授与されました。

本制度は、研究環境が十分でない状況でも医学系研究に挑戦する臨床医を対象とした制度で、両助教は研究に対する強い熱意と独創性の高い研究計画が評価され、受賞となりました。

今後、9名のフェローは研究推進センターの伴走支援のもと研究を進め、受賞者には研究費として研究スタートアップ奨励費が交付されます。



※所属は2025年6月時点の情報です。
※写真は左から松藤学長・守山助教・岡部副学長(近藤助教は都合により欠席)

2026年(令和8年)主な行事予定表

1月17日(土)	国領校 最終講義(午後2時から看護学科1階大講堂)
1月24日(土)	大学院医学研究科(医学系専攻博士課程)入学試験(二次募集)
1月31日(土)	医学科教授退任記念講義(午後3時から大学1号館講堂)
2月1日(日)	看護学科入学試験(一次試験)(筆記試験:午前10時 国領キャンパス)
2月2日(月)	第3回学位記授与式(午後2時30分から大学1号館講堂)
2月3日(火)	看護学科入学試験合格発表(一次試験)(午後1時)
2月4日(水)	看護学科入学試験(二次試験)(面接:国領校看護学科校舎)
2月6日(金)	看護学科入学試験合格発表(二次試験)(午後3時)
2月11日(水・祝)	医学科入学試験(一次試験)(筆記試験:午前10時 東京流通センター)
2月12日(木)	大学院医学研究科(医学系専攻博士課程)入学試験(二次募集)合格発表(午後1時)
2月16日(月)	献体者に対する感謝状伝達式(午後2時から大学1号館講堂)
2月18日(水)	医学科入学試験合格発表(一次試験)(午前10時)
2月19日(木)	第1271回成医会例会(午後6時から2号館講堂)
2月21日(土)	医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
2月22日(日)	医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)

2月23日(月・祝)	医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
3月2日(月)	医学科入学試験合格発表(二次試験)(午前10時)
3月7日(土)	第101回医学科卒業式・第31回看護学科卒業式(午後1時30分から2号館講堂)
3月24日(火)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)修了式
4月2日(水)	令和8年度大学院入学式 3専攻合同(午後1時から大学1号館講堂)
4月9日(木)	令和8年度医学科・看護学科入学式(午後2時から2号館講堂)
4月10日(金)	1年生医学科・看護学科オリエンテーション(午前9時から看護学科1階大講堂)
4月14日(火)	医学科・看護学科新入生スタートアップ研修
4月20日(月)	看護学科新入生歓迎会(午後7時から東京プリンスホテル)
4月24日(金)	医学科新入生歓迎会(午後6時30分から東京プリンスホテル)
4月25日(土)	京都府立医科大学定期戦レセプション(京王プラザホテル)
5月1日(金)	創立記念日
5月18日(月)	第1回学位記授与式(午後2時30分から大学1号館講堂)
5月23日(土)	同窓会第72回通常総会(午後4時30分から2号館講堂、終了後 東京プリンスホテルにて懇親会)
6月13日(土)	実験動物慰霊祭(午後3時から大学1号館講堂)
6月20日(土)	医学科保護者会春期総会(午後3時から看護学科1階大講堂)
6月27日(土)	看護学科学生に関する情報交換会・看護学科保護者会総会(午後1時から看護学科1階大講堂)
6月30日(火)	慈恵-Mayo Clinicジョイントシンポジウム
7月14日(火)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)大学院説明会
7月25日(土)	看護学科34期生「看護への思いを新たにす式」
8月5日(水)	医学科第1回オープンキャンパス(午後1時から2号館講堂)
8月6日(木)	医学科第2回オープンキャンパス(午後1時から2号館講堂)
8月7日(金)	看護学科第1回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
8月8日(土)	看護学科第2回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
8月24日(月)	共用試験CBT(医学科4年生)9時~18時 4階講堂他
8月25日(火)	共用試験CBT(医学科4年生)9時~18時 4階講堂他
8月29日(土)	診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験(Pre-CC OSCE)9時~18時 7階実習室・8階演習室他 大学院医学研究科医科学専攻入学試験
9月11日(金)	高木兼寛シンポジウム(宮崎) 慈恵医大夏季セミナー・東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム (午後7時から大学1号館講堂)
9月12日(土)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)入学試験
9月17日(木)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)入学試験合格発表(午後1時)
9月18日(金)	診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC OSCE)9時~16時30分 7階実習室・8階演習室他
9月19日(土)	診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC OSCE)9時~16時30分 7階実習室・8階演習室他
9月25日(金)	白衣授与式(大学1号館講堂)
9月26日(土)	海外選択臨床実習成果報告会(大学1号館講堂)
10月3日(土)	同窓会第80回定期支部長会議・総会(午後4時から2号館講堂)
10月8日(木)	第143回成医会総会
10月9日(金)	第143回成医会総会
10月10日(土)	大学休業日
10月17日(土)	卒後50周年記念大学招待懇親会(昭和51年卒)(午後5時から東京プリンスホテル)
10月19日(月)	第2回学位記授与式(午後2時30分から大学1号館講堂)
10月24日(土)	ファブール祭(看護学科大学説明会)(看護学科1階大講堂)
10月28日(水)	第122回解剖諸霊位供養法会(午後1時から増上寺)
11月7日(土)	医学科保護者会秋期総会(午後3時40分から2号館講堂)
11月14日(土)	学祖墓参(青山霊園・如水会館)
12月23日(水)	教授・准教授懇談会(午後6時からホテルオークラ)

2025年6月から2025年12月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします

大学公報

行事

- 6月21日(土)午後3時より大学1号館講堂(3階)に於いて第63回実験動物慰霊祭を執り行った。
- 全国戦没者に対し、追悼の意を表する為、次の事を実施しました。
 1. 令和7年8月15日(金)
 2. 半旗を掲揚する
 3. 正午を期して黙とう 1分間

公示

- 2025年4月1日
岩本 武夫氏に、客員教授を委嘱する
後藤 悌氏に、連携大学院教授を命ずる
- 2025年6月26日
学校法人慈恵大、学理事が次のとおり選任された
(寄附行為第8条第1項第1号)
松藤 千弥
(寄附行為第8条第1項第2号)
小島 博己
(寄附行為第8条第1項第3号)
飯田 誠 平本 淳 吉田 博 山本 裕康
竹森 重 中野 匡 川井 真 玉上 淳子
加藤 一人 武石 昌則 高塚 洋二 栗原 敏
谷口 郁夫 丸毛 啓史 井田 博幸 渡瀬 ひろみ
鈴木 ゆかり
(就任年月日 2025年6月26日)
西岡 清一郎氏に、学校法人慈恵大学監事を委嘱する
(就任年月日 2025年6月26日)
三木 修氏に、学校法人慈恵大学常勤監事を委嘱する
(就任年月日 2025年6月26日)
学校法人慈恵大学評議員が次のとおり選任された
(寄附行為第34条第1項第1号)
横尾 隆 岡部 正隆 矢野 真吾 衛藤 謙

- 10月4日(土)、理事長、学長をはじめ大学幹部教員、医学科・看護学科学学生代表、各看護専門学校代表が学祖 高木兼寛先生の墓参を行った。
- 10月28日(火)午後1時より、芝増上寺に於いて第121回解剖諸霊位供養法会が行われた。

- 北 素子 菊地 譲 伊藤 敬夫
(寄附行為第34条第1項第2号)
高橋 紀久雄 赤羽 清彬 宮島 真之
穎川 一信 尾泉 博 八代 利伸
小田 治男
(寄附行為第34条第1項第3号)
高木 公寛 寺島 宗久 萬里小路 智秀
渋谷 田鶴子 東條 克能 小林 正道
石塚 雄三
(就任年月日 2025年6月26日)
学校法人慈恵大会計監査人が次のとおり選任された
(寄附行為第52条)
有限責任監査法人トーマツ
(就任年月日 2025年6月26日)
栗原 敏氏に、学校法人慈恵大学理事長を命ずる
(就任年月日 2025年6月26日)
丸毛 啓史氏に、学校法人慈恵大学副理事長を命ずる
(就任年月日 2025年6月26日)
谷口 郁夫氏に、学校法人慈恵大学専務理事を命ずる
(就任年月日 2025年6月26日)
山本 裕康氏に、学校法人慈恵大学常務理事を命ずる
(就任年月日 2025年6月26日)
川井 真氏に、学校法人慈恵大学常務理事を命ずる
(就任年月日 2025年6月26日)

大学公報

- 2025年6月30日
被懲戒処分者 看護師
処分日 2025年6月30日
処分の種類 譴責
就業規則第101条第6号に該当
事案の概要
被懲戒者は同僚に名義貸しを依頼し、大学の福利厚生施設利用還付金の不正受給申請手続きを実施した。不正受給申請行為は未遂であるとは言え、就業規則第102条「減給、出勤停止及び降格」第1項第4号(職場内の秩序、風紀を乱す行為等があったとき(セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント及びその他のハラスメントを含む)及び第1項第6号(素行不良その他大学の名誉を汚す行為のあったとき)に該当する量刑である。しかしながら、被懲戒者は初犯であること、改悛の情が顕著であり、情状酌量の余地が認められる為、第100条第1号「譴責」処分とした。

- 2025年7月1日
林 弘子助教に、客員教授を委嘱する
被懲戒処分者 医師
処分決定日 2025年6月26日
処分の種類 出勤停止7日間
就業規則第102条第4号に該当
事案の概要
被懲戒者は、部下に対してパワーハラスメントを行い、また、病院所有物の私的利用や、所定労働時間を大きく下回る勤務実態も認められ、職場内の秩序を乱した。就業規則第102条「減給、出勤停止及び降格」第4号の該当とし、就業規則第100条第3号「出勤停止」処分とした。

- 2025年7月28日
被懲戒処分者 看護師
処分決定日 2025年7月24日
処分の種類 譴責
就業規則第101条第6号に該当
事案の概要
被懲戒者はSNS(インスタグラム)に不適切な画像を

投稿した。画像には、患者に対する配慮を欠く表現や個人が特定される可能性のある情報が含まれていた。本行為は、学校法人慈恵大学ソーシャルメディア利用ガイドライン第7条「遵守事項」第1号(誹謗中傷、名誉棄損、嫌がらせ、脅迫に該当する内容)及び第2号(他人のプライバシーに関する内容)に該当し、就業規則第35条「服務心得」第1項第1号(大学の内外を問わず、教職員としての品位を保ち、いやしくも大学の信用を傷つけ、又は名誉を損なうような行為をしてはならない)に違反する行為である。本来であれば、就業規則第100条第2号「減給」に該当する行為であるが、本人の改悛の情が顕著であり、情状酌量の余地が認められる為、第100条第1号「譴責」処分とした。

- 2025年8月1日
堀 純子氏に、客員教授を委嘱する
諏訪 勝仁准教授に、教授を命ずる
田中 俊英准教授に、教授を命ずる
丸山 之雄講師に、准教授を命ずる
仲田 健男講師に、准教授を命ずる
目崎 喜弘講師に、准教授を命ずる
松浦 彩美氏に、看護学科准教授を命ずる
佐藤 智彦氏に、附属病院輸血・細胞治療部診療部長を命ずる

- 2025年10月1日
三澤 園子氏に、客員教授を委嘱する
前野 貴美氏に、教授を命ずる
石川 太郎准教授に、教授を命ずる
矢野 真人准教授に、教授を命ずる
小川 和男講師に、准教授を命ずる
山下 省吾講師に、准教授を命ずる
遠藤 新大講師に、特任准教授を命ずる
(特任期間 2025年10月日~2028年3月31日)
永吉 美智枝看護学科准教授に、看護学科教授を命ずる
10月11日(土)は、本学創立者 高木兼寛先生の記念日につき休業いたします
大学 総合医科学研究センター 統合栄養医化学研究部を設置する

大学公報

大学 先端医学推進拠点群 安定同位体医学
応用研究センターをシステミック・インテリジェンス生
命医科学研究センターに名称変更する

渡邊 友之氏に、附属柏病院眼科診療部長代行
を命ずる

● 2025年11月1日

黒部 仁准教授に、教授を命ずる

平野 大志講師に、准教授を命ずる

木下 翔司講師に、准教授を命ずる

● 2025年12月1日

青沼 宏佳講師に、准教授を命ずる

学事

● 大学院修了者

2025. 6. 11 大庭 梨菜

2025. 6. 25 神藤 慧玲

2025. 7. 9 山口 曜

2025. 7. 23 今川 記恵

2025. 9. 10 山口 純 林 友則 山内 浩文

菊地 亮

2025. 10. 22 稲毛 由佳

2025. 11. 12 馬場 俊輔

● 学位論文通過者

2025. 6. 11 石川 美夢 竹内 博一

2025. 6. 25 高木 俊成

2025. 7. 9 原 修平

2025. 7. 23 禹 潤 平山 晴之

2025. 9. 10 樋口 陽大 瀧島 輝幸

中沢 真優子 佐々木 茂真

2025. 9. 24 塚本 遥

2025. 10. 22 竹内 直子

2025. 11. 12 土谷 千子 中村 瑞道

2025. 11. 26 松岡 秀典 古河 賢太郎

訃報

▶萩野 智加事務員(法人事務局財務部経理課)は、6月29日逝去されました。

▶真島 香代子客員医師(総合健診・予防医学センター新橋健診センター)は、
6月24日逝去されました。

▶鳥海 和弘非常勤講師(麻酔科学講座)は、7月9日逝去されました。

▶本多 芳男名誉教授(耳鼻咽喉科学講座)は、7月16日逝去されました。

▶茅島 江子看護学科元教授(母性看護学)は、11月20日逝去されました。

▶川村 忠夫客員教授(旧第1 内科)は、11月27日逝去されました。

大学公報

東京慈恵会公報

● 行 事

2025年6月3日(火) 公益社団法人 東京慈恵会 理事会、評議員会、定時総会が開催された。

2025年11月11日(火) 公益社団法人 東京慈恵会 理事会を開催した。

補助金・助成金

● 2025年度科学研究費助成事業 申請・採択状況一覧


種 目	新規申請 件数	採択件数		
		新規採択件数	継続採択件数	採択件数合計
学術変革領域研究(A)	1	0	0	0
学術変革領域研究(B)	0	0	0	0
学術変革領域研究(A)(公募研究)	3	3	1	4
基盤研究(S)	0	0	0	0
基盤研究(A)	2	0	0	0
基盤研究(B)	21	8	18	26
基盤研究(C)	163	58	90	148
挑戦的研究(萌芽)	25	1	3	4
挑戦的研究(開拓)	2	0	1	1
若手研究	46	22	52	74
研究活動スタート支援	7	3	2	5
特別研究員奨励費	23	3	2	5
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)	0	0	1	1
奨励研究	1	0	0	0
合計	294	98	170	268

注)①採択件数は、2025年11月1日現在の件数となり、転入者及び転出者は除く。 ②繰越(補助金)、延長(基金)、学外分担者を除く。

生涯学習・公開セミナー等

<p>慈恵医大生涯学習センター</p> <p>慈恵医大 生涯学習セミナー 月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。</p> <p>月例セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開催日時 第2土曜日(4月、6月、11月) 16:00~18:00 ● 場所 附属病院(本院) 中央棟3階会議室 <p>第272回</p> <p>月日 2026年4月11日(土)</p> <p>時間 16:00~17:00</p> <p>テーマ 知っているようで知らない 骨と筋肉の話</p> <p>演者 中央検査部 越智 小枝</p> <p>時間 17:00~18:00</p> <p>テーマ 患者さんの食事と運動 どうみえますか</p> <p>演者 リハビリテーション科 鈴木 慎</p> <p>第273回</p> <p>月日 2026年6月13日(土)</p> <p>時間 16:00~17:00</p> <p>テーマ 心房細動-最も身近で最も見過ごせない不整脈</p> <p>演者 循環器内科 徳田 道史</p> <p>時間 17:00~18:00</p> <p>テーマ 心不全について -心肥大症例へのアプローチと潜在する心アミロイドーシス-</p> <p>演者 循環器内科 柏木 雄介</p> <p>第274回</p> <p>月日 2026年11月14日(土)</p> <p>時間 16:00~17:00</p> <p>テーマ 睡眠時無呼吸症候群のいま</p> <p>演者 耳鼻咽喉・頭頸部外科 齊藤 吉紀</p> <p>時間 17:00~18:00</p> <p>テーマ 女性の下部尿路症状と治療について</p> <p>演者 泌尿器科 本田 真理子</p> <p><small>注)一部変更することもあります。</small></p> <p>[第46回慈恵医大夏季セミナー 東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム]の開催を9月に予定しています。</p> <p>お問合せ先:生涯学習センター TEL:03-3433-1111(大代表)内線2634</p>	<p>附属病院(本院)</p> <p>[心肺蘇生法 AED 使用法講習会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時 2026年2月21日(土) 12:00~13:00(予定) ● 会場 慈恵大学病院 外来棟1階カンファレンス室 ● 参加費 無料 ● 申込方法 詳細は病院HPのTOPICSに掲載予定。 <ul style="list-style-type: none"> ● 日時 2026年4月18日(土) 12:00~13:00(予定) ● 会場 慈恵大学病院 外来棟1階カンファレンス室 ● 参加費 無料 ● 申込方法 詳細は病院HPのTOPICSに掲載予定。 <ul style="list-style-type: none"> ● 日時 2026年6月20日(土) 12:00~13:00(予定) ● 会場 慈恵大学病院 外来棟1階カンファレンス室 ● 参加費 無料 ● 申込方法 詳細は病院HPのTOPICSに掲載予定。 <ul style="list-style-type: none"> ● 日時 2026年8月8日(土) 12:00~13:00(予定) ● 会場 慈恵大学病院内※会場調整中 ● 参加費 無料 ● 申込方法 詳細は病院HPのTOPICSに掲載予定。 <p>お問合せ先:慈恵大学病院 管理課 PUSHコース担当者 TEL:03-3433-1111(代表)</p> <p>2025年度 みんなの健康教室 ~予防と備え~ (共催:港区みなと保健所・東京慈恵会医科大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開催時間 14:00~15:15(開場13:30) ● 場所 みなと保健所8階会議室 <p>第6回</p> <p>月日 2026年3月7日(土)</p> <p>テーマ 薬の適切な管理・服用方法のポイントと抗がん剤治療の進歩</p> <p>演者 薬剤師 長澤 京太郎</p> <p>医療連携フォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時 2026年3月12日(木) 19:00~ ● テーマ 揺らぐ医療の経済基盤 今こそ経営を変える勇気を 制度・政策・現場の三視点で考える、医療の持続可能性 ● 会場 講演:大学1号館講堂 懇親会:2号館講堂 講演1 日本医師会総合政策研究機構 首席研究員 江口成美 講演2 東京科学大学 名誉教授 河原 和夫 講演3 株式会社アーレア 代表取締役 渡瀬ひろみ <p>お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室 TEL:03-5400-1202(直通)</p>	<p>西部医療センター</p> <p>慈恵ガジュまる教室(予定) 2026年2月21日(土) 2026年3月21日(土)</p> <p>※詳細は後日ご案内予定です。</p> <p>お問合せ先:慈恵西部健康推進センター事務局 E-mail:jikeihopcenter@jikei.ac.jp</p> <p style="background-color: #008080; color: white; text-align: center;">柏病院</p> <p>2025年度地域がん診療連携拠点病院事業 第27回市民公開講座 [肝臓がん予防と検査の役割]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時 2026年3月1日(日) 以降配信開始予定 ● 司会 地域がん診療連携拠点病院運営委員長 高野 浩邦 (柏病院副院長) ● 開会挨拶 柏病院長 吉田 博 ● 演者1 中央検査部診療部長 政木 隆博 「肝臓がんは予防できる! ウイルス性肝炎の検査と脂肪肝対策」 ● 演者2 中央検査部主任 佐藤 亮 「ここを見ればわかる! 肝臓の検査データの読み方」 ● 対象者 がん患者およびその家族、地域住民、当院教職員、その他医療従事者等 ● 公開方法 オンデマンド配信(慈恵VIDEOS、慈恵大学広報課YouTube) ● 参加費 無料(申込不要) <p>お問合せ先:柏病院地域がん診療連携拠点事務局(業務課) TEL:0570-04-7164(ナビダイヤル)</p>
--	---	---

生涯学習・公開セミナー等

<p>葛飾医療センター</p> <p>第63回 公開セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時 2026年2月14日(土) 14:00~15:30 (13:00開場) ● 場所 葛飾医療センター 5階講堂 ● テーマ 健康寿命を延ばそう ~目と眠りの健康講座~ ● 演者1 眼科 診療医長 田 聖花 「気をつけたい!加齢とともに増える目の病気」 ● 演者2 耳鼻咽喉・頭頸部外科 准診療医員 中澤 圭史 「睡眠時無呼吸と加齢」 ● 後援・協賛 東京慈恵会医科大学同窓会 ● 参加費 無料 ● 定員 先着90名 <p>お問合せ先:葛飾医療センター 管理課 TEL:03-3603-2111(大代表)内線5911</p>	<p>東京慈恵会医科大学</p> <p>地域連携看護学実践研究センター (JANP センター) 主催</p> <ul style="list-style-type: none"> ● みんなのまなび場 にじいろスマイルの会(小児在宅ケア) 医療的ケア児学習会 ~医療的ケア児の呼吸管理について一緒に学びませんか?~ ● 日時 2026年3月14日(土) 14:00~16:00 ● 会場 東京慈恵会医科大学 医学部看護学科 大講堂 ● 講演①/技術演習 医療的ケア児における気管切開・吸引 東京慈恵会医科大学西部医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療部長 志村英二氏 ● 講演②/技術演習 医療的ケア児における呼吸リハビリテーション・ポジショニング 東京都立北療育医療センター 訓練課 理学療法士 翠川麻理恵氏 ● 申込方法 QRコードからオンライン申し込み (3月12日締め切り) <p>お問合せ先:看護学科 学事課 TEL:03-3430-8686(自動オペレーター) 内線2102 E-mail:janp@jikei.ac.jp</p> 	<p>慈恵医師会</p> <p>慈恵医師会産業医研修会</p> <p>2026年6月7日(日)に開催いたします。 (主催)慈恵医師会 (共催)東京都医師会</p> <p>お問合せ先:慈恵医師会 TEL:03-3433-1111(大代表)内線2636</p>
---	--	--

院内表彰受賞者

(2025.6~2025.11)

年月	部署	職種	受賞者	表彰理由
2025.7.25	臨床工学部、看護部、腎臓・高血圧内科	医師、看護師、臨床工学技士	黒田 祐規、押川 愛、小田 悠樹、小袖 理香、岩谷 理恵子、黒川 和美、白井 泉、小林 賛光、平野 景太	成医会第三支部例会ポスター発表表彰(院長賞)
2025.7.25	リハビリテーション科	医師・作業療法士、理学療法士	諏訪部 亮太、石川 篤、高橋 仁、木下 翔司	成医会第三支部例会ポスター発表表彰(成医会賞)
2025.10.24	脳神経外科	医師	岡野 宏玄ディビッド	救急医療業務功労者への院長からの表彰
2025.10.24	糖尿病・代謝・内分泌内科	医師	江本 薫子	

プレスリリース

(2025.7～2025.11)

ホームページでもご覧いただけます
https://www.jikei.ac.jp/press/

配信日	タイトル	発信者
2025 7/7	嫌悪体験が将来の学習ルールを調節する脳内神経メカニズムを解明 ～PTSDなどの治療法開発の新たな手がかりに～	臨床医学研究所 遠山卓研究員、渡部文子教授
7/7	新規ポリマー結合型抗がん剤TXB-001が心毒性リスクの低減につながる可能性を確認	疼痛制御研究講座 野中美希特任講師、上園保仁特任教授
7/22	複数の病気を抱える患者の「治療負担」を可視化する日本版尺度を開発 ～治療の大変さを定量化、診療や研究での活用へ期待～	臨床疫学研究部 青木拓也准教授、金久保祐介博士研究員、松島雅人教授
7/22	特発性肺線維症に対する新たな治療標的PAK2を発見 ～シングルセルRNA-seq解析および空間トランスクリプトーム解析技術を統合した最先端の手法により解明～	次世代創薬研究部 藤田雄准教授、 内科学講座(呼吸器内科) 渡邊直昭助教、平野悠太助教、 吉田昌弘講師、荒屋潤教授
7/22	120種類ものタンパク質を空間的に捉える画像解析技術「PathoPlex」を新開発 ～特殊な装置を使わず高精度な空間プロテオミクスを実現～	内科学講座(腎臓・高血圧内科) 岡林佑典助教
7/23	難治性てんかんに対する反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)の安全性を 世界で初めて明らかに薬の効かないてんかんでも重い副作用なく発作 が20%以上減少	脳神経外科学講座 村山雄一教授、小関宏和助教、 武石英晃助教、リハビリテーション医学講座 安保雅博教授、 臨床検査医学講座 越智小枝教授、海渡信義講師
7/23	短期の社会的孤立による社会的接触行動の増加に島皮質が関与することを解明 ～孤独による行動変容の脳内メカニズムの手がかりに～	臨床医学研究所 日吉加菜映研究員、松下大地医学科4年生、 渡部文子教授
7/24	東京慈恵会医科大学附属第三病院のリニューアル事業 「笑顔を明日につなぐ場所。」2026年1月のリニューアルオープンに向けて、 「(仮称)東京慈恵会医科大学西部医療センター」キーマッセージと キービジュアルを策定	学校法人 慈恵大学
8/2	「膵がん早期診断コンソーシアム」を発足 ～クラウドファンディングの想いをのせて、膵がん早期診断の実現へ～	内視鏡医学講座 島本奈々助教、炭山和毅教授、 次世代創薬研究部 藤田雄准教授
8/25	RyR1のCa2+誘発性Ca2+遊離は骨格筋の生理的な収縮に寄与しないことを証明 ～半世紀にわたる論争に終止符～	基盤研究施設・SI医学応用研究センター 山澤徳志子教授、 分子生理学講座 谷端淳講師、三木祥史医学科4年生
8/26	喫煙による潰瘍性大腸炎の症状緩和の成因を解明 ～喫煙が腸内環境に与える影響を明らかに～	附属柏病院消化器・肝臓内科 小井戸薫雄非常勤講師、 内山幹准教授、
8/26	切除不能進行膵癌に対するWT1標的免疫化学療法における 長期生存率に基づいた治療効果予測バイオマーカーの探索的研究	附属柏病院消化器・肝臓内科 小井戸薫雄非常勤講師、 伊藤善翔非常勤診療医長、臨床医学研究所 伊藤正紀講師、 内山幹准教授、大草敏史客員教授、 内科学講座(消化器・肝臓内科) 猿田 雅之教授
9/16	野生蚊から“ウイルス感染の痕跡”を簡便に検出する新手法を確立 ～蚊媒感染症の監視への応用に期待～	熱帯医学講座 青沼宏佳講師、嘉糠洋陸教授
9/17	第17回 働く人の健康支援研究会開催のお知らせ社内医療職・産業医の ための「医療職だからできる、健康経営のカタチ」	東京慈恵会医科大学附属病院
9/17	大腸菌が“毒性のあるアミロイド”の材料タンパク質を安全に分解する仕 組みを発見—神経変性疾患研究にもつながる基礎的成果—	細菌学講座 杉本真也准教授、金城雄樹教授、 寺澤友梨香医学科ユニット医学研究専攻
9/24	東京慈恵会医科大学とVeritas In Silico、抜本的な医薬品主作用の亢進と 副作用の低減を目的とした共同研究開始のお知らせ	再生医学研究部 岡野ジェイムス洋尚教授、太田裕貴講師
10/10	国内外科系学会として初の「睡眠外科」に関する講演 —不眠を手術で治療、その最前線—	形成外科学講座 宮脇剛司教授
10/14	爪の異常と乾癬性関節炎の関節病変の関連を解明 —患者負担の少ない診断・管理法の実現に向け前進—	皮膚科学講座 太田真由美講師、延山嘉真教授、 朝比奈昭彦教授
10/21	世界初、人工知能で手術動画から真珠腫の検出に成功 —内視鏡・顕微鏡統合AIの臨床応用と教育支援の第一歩—	耳鼻咽喉科学講座 宮澤涉助教、高橋昌寛講師、小島博己教授
10/31	新型コロナ収束後も外来受診は回復せず パンデミック前の約6割に ～約3,000人を対象とした受療行動に関する全国調査～	臨床疫学研究部 青木拓也准教授、松島雅人教授
11/5	東京慈恵会医科大学附属第三病院のリニューアル事業 (仮称)東京慈 恵会医科大学西部医療センター 新本館棟が竣工 新病院として2026年 1月5日に開院	学校法人 慈恵大学
11/10	東京慈恵会医科大学附属第三病院リニューアルプロジェクト 新病院マスコミ公開のご案内 (仮称)東京慈恵会医科大学西部医療セン ター 2026年1月5日リニューアルオープン	学校法人 慈恵大学
11/28	在宅医療で高齢患者の約4人に1人が“生活機能の回復”を経験 ～在宅訪問診療での生活の質向上、介護負担軽減の可能性～	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 日向佑樹研究生、 松島雅人教授

寄付のお願い

平素より本学に対してご支援、ご協力を賜り、
心から厚く御礼申し上げます。

皆さまより多大なるご声援とご支援を賜りました第三病院リニューアル事業は、計画通り、2026年1月に「東京慈恵会医科大学西部医療センター」としてリニューアルオープンすることができました。誠にありがとうございました。

これからもより一層地域医療に貢献し、地域から愛される医療機関となるよう、教職員一同誠心誠意努める所存です。

新しい病院が建ちましたが、環境は依然として厳しく正にこれからの正念場となります。これまでも社会貢献のために大きな投資をしまいましたが、今後も病院や大学キャンパスの整備、また教育、研究にも多くの資金が必要となります。引続き自助努力を重ねて参りますが、資金の調達にも限りがあります。

皆さまには、引き続きご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

【お知らせ】

一般のご寄付につきましても記念事業募金と同様、100万円以上のご寄付をいただいた方のお名前をドナースボードに掲載させていただきます。また、税務上の優遇措置につきましても記念事業募金と同じ取扱いとなります。

寄付者名簿

・2025年6月1日～2025年10月31日の寄付者

● 企業等	● 同窓生	大鷲清人
医療法人共済会	小路美喜子	加納光夫
清水病院	小立健	黒部健二
理事長 清水正人	高橋紀久雄	下道栄り奈
	徳田政道	後藤國彦
医療法人社団	萩原正則	小林正道
ONE TEAM	福本恵三	菅田万里子
	安田允	大正歩夢
医療法人	● 同窓会支部会・クラス会	滝澤正文
立川メディカルセンター	慈恵医大昭和50年 卒業生一同	椿秀夫
理事長 吉井新平		戸谷克昌
	● 父兄	中谷沙恵里
株式会社	飯塚光子	西谷旭
シグママックス・ホールディングス	東京慈恵会医科大学 医学科保護者会 会長 望月英明	樋口美和子
代表取締役 太田寛	辻徳雄	藤田幸一
	平井高志	松原靖広
日本畜産興業株式会社		黛敏彦
	● 一般個人	光川幹雄
日本中央競馬会	青柳雅也	宮内裕之
理事長 吉田正義	石井達也	米山和宏
	大竹昭	

ガバナンス

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

(目的)

第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待・受入の禁止)

第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受入を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基つき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。

2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則

1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、地域のかかりつけ医と当院の医師が互いに連携し、共同で継続的に治療を行う「2人主治医制」を推進し、地域の先生方との密なる医療連携を目指します。患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18
TEL 03-5400-1202(直通)
FAX 03-5401-1879(直通)



葛飾医療センター

入退院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL 03-3603-2111(代表)内線5145
FAX 03-3690-7474(直通)

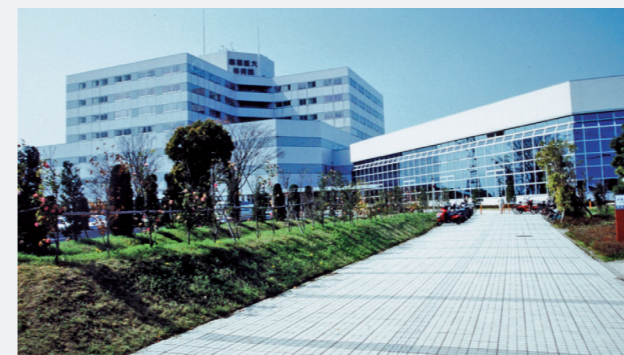


西部医療センター

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1
TEL 03-3430-3600(直通)
FAX 03-3430-3611(直通)



柏病院

患者支援センター 医療連携室



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1
TEL 04-7167-9680(直通)
FAX 04-7164-1197(直通)

[表紙の人]



岩楯 公晴

Kimiharu Iwadata

東京慈恵会医科大学
法医学講座担当教授

亡くなった方の人生に、思いを馳せて

法医解剖の多くは事件・事故と無関係な症例で、突然死などによって家族を失った方々の率直に死因を知りたいという気持ちによるものです。

法医学者は死者の声なき声を聞くとか、死者の気持ちを代弁するなどと言われたりもしますし、実際そのような想いで業務にたずさわっている方もいると思います。私はそこまでの熱血漢ではなく、むしろ、そのような気持ちは正確性、客観性が求められる剖検診断に悪影響をもたらすと思っており、解剖結果は私情を交えず、ほぼ全例で遺族に直接説明しています。ただし、人の亡くなり方はある意味ではその人のそれまでの生き方の縮図ともいえるのも確かで、個々のケースについて思うところは多々あります。

亡くなった方のそれまでの人生に対するリスペクトを忘れず、一例一例のご遺体、ご家族に真摯に向き合う姿勢を大切に、これからも日本の法医学最前線としての解剖業務を肅々と継続していきたいと思っています。



東京慈恵会医科大学 法医学講座
<https://jikei-forensic.jp>



編集後記

2026年1月、待望の「東京慈恵会医科大学西部医療センター」がリニューアルオープンしました。第三病院として70年以上の間、地域医療を支えてきましたが、慈恵大学の志を未来へと「つなぐ」新たな物語が始まりました。また、東京慈恵会医科大学同窓会が設立100周年という大きな節目を迎え、2025年11月15日にThe Okura Tokyoで盛大に行われた記念式典の様子を特集記事でご紹介しています。さらに、学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会が「理念行動化戦略」の一環として2023年度より実施している「車座トーク」を、学祖の墓参の日にあたる昨年10月4日に開催しました。大学執行部、教職員、学生が集い、「慈恵ブランド」「働く意義、働き続ける価値」について語り合った様子を本誌のトピックスでご紹介しています。

来る2030年、本学は創立150年を迎えます。本誌では皆さんと価値観ならびに方向性を共有することを目的に、これからも発展し続ける本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

法人広報委員会委員長 山本 裕康

略歴

1989年 筑波大学 医学専門学群 卒業
1989年～1993年 筑波大学大学院博士課程 修了
1993年～1998年 東京大学法医学教室助手
1998年～2007年 東京医科歯科大学法医学教室 講師・助教授
2007年～ 東京慈恵会医科大学 教授

主な所属学会

日本法医学会、日本法医病理学会、日本法医画像研究会、
日本法歯科医学会、日本DNA多型学会

研究分野

法医病理学



発行 学校法人 慈恵大学
発行人 理事長 栗原 敏
連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
学校法人 慈恵大学 広報課
TEL 03-3433-1111(大代表)
FAX 03-5400-1281
e-mail koho@jikei.ac.jp
号数 第45号
発行日 2026年2月1日

<https://www.jikei.ac.jp/>